

2. 之レニ對シ海峡兩岸ノ砲台ヲ確實ニ援護
シ其機能ヲ充分發揮セシメシテ爲メニハ
敵飛行機ヲ擊墜シテコレヲ近接セシメ
ザルヲ必要トス

3. 而シテ現有機關銃一六挺ハ高射用具
ヲ有スト雖モ敵ノ上陸ニ對シ地上
戦闘ニコレヲ用ヒラルル場合多カル
ベク對空直接掩護兵備トシテ其
威力機關銃ヨリ一層大ナル機關砲
ヲ配置スルヲ可トス

五、當要塞夜間戰鬥兵備トシテ各砲台ニ
探照燈及照空燈ヲ備ヘ付クルヲ要ス
(理由)
目下ハ皆無ナリ速ニ整備ヲ希望ス

第二、北千島ニ平時有力ナル兵備ヲ準備スル件
 一、占守島ニ常時有力ナル部隊ヲ配置シ如何ナル敵ノ攻撃ニ對シテモ之ヲ確保シ以テ敵ノ進撃ヲ阻止挫折セシメ我ガ北進ノ根據ヲ堅固ナラシムルヲ要ス
 軍ニ愧筵海峡ノミノ保持ハ遂ニ其意義ヲ没却セン

(理由)

北千島ノ軍事上ノ重要性ハ主トシテ
 愧筵海峡及占守海峡ニアリ
 而シテ前者ハ海、空、西軍ノ泊地トシテ後者ハ制海權ノ鍵機トシテ
 共ニ北海ニ於テ重鎮タリ
 而シテ此兩海峡、中核ヲ成ス占守

島ハ地形概ネ平坦ニシテ東西約十六料南北約二十料ノ一大波狀地ヲナシ僅少ナル加エニヨリ飛行機ノ着陸ヲ可能ナラシムル場所甚カラザルガ如シ即チ占守島ハ我ガ海、陸、空軍北進ノ基地トシテ北千島ニ於ケル軍事上ノ樞軸ヲナシ西海峡ヲ堅持セント欲セバ須ク此ノ島ヲ確守セザルベカラザル要衝ニアリ故ニ占守ノ獲否ハ戰鬪ニ重大ナル影響ヲ與フルモノニシテ「米」ソト開戦セバ彼等ガ速ニ戰前奇襲ヲ以テ本島ノ占領ヲ企圖スルヤ必セリ

サレバ我レハコレニ對シ機ヲ失セズ
断固之レヲ排撃シテ敵ノ上陸ヲ
不能ナラシメ緒戦ニ敵ヲ壓倒シ
其企圖ヲ挫折セザルベカラズ
然ルニ占守島ハ函館ヲ去ル約九百哩
ソレ領カムチヤツカニ近ク約六哩ニ
シテ一韋帶水ノ占守海峡ヲ以テ
ロパトカ岬ニ對ス

而シテ米領アリユーシヤン其東ニ連リ
北千島ヲ包圍ハ連合シテ孤立無援ノ
而モ米領ソレノ此等ニ飛行基地及ヒ
海軍泊地ヲ設ケ軍備ヲ整ヘアルニ
比シ我レハ今日漸ク要塞ヲ設定

シタリト雖モ全島ハ尚無人ニシテ
上陸ヲ阻止スベキ何者ヲモ有セザル
現況ニアリ誰カ危殆ナシト謂ハ
ンヤ

若シ夫レ千島遠ニシテ其島嶼
小ナルノ故ヲ以テ備ヘテ急リ外敵ヲ
シテ自由ニ此地ニ跳梁セシムルコトア
ランカ必勝日本國民ノ精神ニ
影響スルコト甚大ニシテ國防ヲ担任
スベキ皇軍ノ威信地ヲ構フニ至ラン
茲ニ着眼セル郡司大尉ノ雄圖達
眼ニ對シ今更ナガラ敬意ヲ表ス
ルモノナリ
思ワテ茲ニ到レバ北境危シト

叫バザルヲ得ザル現況ニアリ
之、茲ニ敵ノ探ルベキ作案ヲ一考スルニ
概ネ左ノ如キモノナランカ
而シテ何レモ戰前奇襲的ニ行ハル
ベキハ勿論ナリ

- (イ) 海空軍ノ協同奇襲ヲ以テ一舉
ニ機筵、占守西海峽ヲ制扼ス
- (ロ) 一面我海空軍ニ對戰シ他面
海空陸ノ三軍ヲ以テ逐次ニ
占守島ノ占領ヲ企圖ス
- (ハ) 彼が研究セシ戦法及兵器ノ實地試驗
ヲ目的トシテ攻撃ヲ企圖スルコトアリ
即チ空輸落下
海岸攻撃兵器及戦法ノ實演

特殊瓦斯及其他化學戰器材ノ實演
而シテ何レノ場合ト雖モ敵ノ進路ノ關係ト
近代兵器ノ様相ヨリ考フルトキ
北千島ガ初期優勢ナル敵各種ノ攻撃ヲ
ヲ受クベキコト及優勢ナル敵飛行機
ノ攻撃ヲ受クベキコトノ二件ハ
火ヲ睹ルヨリモ瞭ナリ

現況何ヲ以テ對セントスルヤ
3. 北千島ハ交通連絡不便ナルノミナラス
頗ル不老ニシテ人的及物的一切ノ資
源ハ内地本土ニ仰ガザルベカラサル
不利ヲ有ス

コレ平時ヨリ所要ノ兵備ヲ準備セザ
ルベカラザル重要理由ノ一ナリ

4. 以上三項ヲ綜合討究スルニ占守島ニ

左記諸項ニ合致スベキ兵備ヲ必要トス

(1) 世界ノ情勢混沌トシテ明日ヲ豫断シ

得ザル狀況ニ處シテ急速ナル戦端開始ニ

悔ナカラシムル爲速ニ必要ニシテ充分ナル

兵力ヲ常駐セシムルコト

(2) 敵ノ航空部隊並ニ陸上新優秀裝備

部隊ヲ撃退シ得ル程度ノ裝備優秀

ナル有力部隊ヲ置クコト

(3) 寡兵良ク衆敵ヲ拒止シ得ルノ築城、

兵器及諸施設ヲナスト共ニ春夏秋又ニ

各種ノ天變ニ慣レ且ツ之レガ活用ニ熟シ

タル精練ナル軍隊タルコト、之レガ爲ニハ

常駐セシメテ現地ニテ訓練ノ要多シ

(4) 海陸ノ交通及有無線通信ヲ強化シ

島及其附近ハ勿論内地本土間ノ連

絡並ニ輸送ヲ円滑ナラシムルコト

(5) 彈藥糧食被服醫藥其他一切

ノ兵用諸品ハ長期間ノ使用ニ堪

ヘ且ツ補充ノ不便ニ應ジ得ルコト

即チ北境ヲ堅守シテ國防ニ不安ナ

カラシメントセバ須ク占守ニ兵力ヲ

常駐セシムルヲ要ス 而シテ一刻

ノ遲延ヲ許サザルモノト認ム

二、幌筵海峡両側地帯及占守島ヲ全部要

塞地帯トシ 同島海岸ノ要所ニ築城シ

警備ハ築城セザル場所ニ對シテモ部外者

ヲシテ擅ニ使用セシメザルヲ要ス

(理由)

1. 前項ノ理由ニ依ル
 2. 北方進攻作戰ノ基地タラシムル為主力
 到着迄ハ勿論警へ主力ノ前進後
 ト雖モ常ニ寡カ兵ヲ以テ本島守備
 ヲ最平タラシムルヲ要ス
 3. 常時ト雖モ島内外ヲ調査謀調
 セシメザル為要塞地帯法規ヲ以テ
 制スルヲ要ス

第三、北千島ヲ陸軍ニ移管ヲ受クル件
北千島守島幌筵島鳥島列島ハ速ニ
陸軍ニ所屬セシムルヲ要ス

(理由)

一、北千島ノ重要性ハ幌筵海峡西側及
占守島ヲ陸軍用地トナスノ件ハ
前述ノ理由ニヨル
二、全幌筵島ノ重要性ハ占守ノ直接
的ナルニ反シ間接的ナリ即チ

(イ) 軍用船舶ノ待避待機等ノ爲
港灣ヲ利用ス蓋シ海上荒キト
敵ニ近キトノ爲必要ノ度大ナリ
(ロ) 敵ニ近シテ各種北地ノ訓練ヲナシ

得(北地ノ状況ハ大陸ニ於ケルモノト同ジ
カラサルモノアリテ特殊研究ヲ要スルモノアリ)
(ハ) 北千島在島部隊ニ對スル補給ノミ
ナラス北方進攻作戰ノ補給基地
トス之ガ爲常ヨリ設備ヲ行フ
特ニ冬營設備ニ於テ然リ
蓋シ當地方ハ海上荒ク内地本土
ヨリ長距離ヲ一氣ニ適時ニ輸送
シ且ツ揚塔ヲ行ハントスルハ困難
ニシテ近距離ヨリ適時海上ノ靜
穩ナル時ヲ捉ヘ短時間ニ航送スル
如キ處置ヲ要ス
(ニ) 飛行場ヲ構築ス
(ホ) 北地交通獸類タル馴鹿、犬等ノ

飼育ヲ行フ。(雪中ハ此等獸類ハ他ノ及バザル特異性ヲ有シ北地作戰ニハコレ等ハ絶對必要ノ資源タリ其給與モ容易ナリ而シテ其着午ハ速ナルヲ要ス)

(V) 軍用毛皮獸ノ飼育ヲ行フ

(VI) 軍隊自給資源ヲ獲得ス

(將來ノ研究ニ俟ツ)

(4) 本島全般ニ繁茂スルハンノ木ハ火藥資源トシテ重要價値ヲ有ス即チ本島ハ軍事上補給地トシテ價値大ナリ故ニ亦將來軍事上ノ施設ヲ行フベキヲ顧慮シ本島ヲ部外者ヲシテ檀ニ利用セシメズ一ニ軍ノ必要ニ基キ

利用スルヲ要ス而モ現況ハ両島共ニ無人ニシテ單ニ海岸ニ漁場ノ散在スルノミナルヲ以テ今ノ裡ニ軍ニテ自由ナル處置可能ノ權限ヲ得テ國防ニ遺憾ナカラシムルヲ要ス然ラズンバ噬臍ノ悔ヲ貽スニ至ラン
3. 鳥島列島ハ幌筵海峽南口ヲ扼スル數個ノ島ニシテ軍事上ノ施設ヲ欲ス要アリト認ム獨リ陸軍ノ用ニ充ツルノミナラス海軍亦所要アラシ
以上三島ヲ陸軍用地トナスノ所以ハ軍ノ意圖、如ク國防施設ヲ行ヒ且ツ特殊施設ヲ利業者ニ禍セラレザランガ爲ナリ

第四、北千島ニ要塞地帯ヲ速ニ設定スルト共ニ
 關係各省竝ニ北洋水産業者トノ
 協調ヲ密ナラシムル件
 一、速ニ要塞地帯ヲ設定シテ北千島要塞ノ
 法的價值ヲ高上スルヲ要ス

(理由)

冬期ハ在島人員少キ爲大ナル顧慮ヲ要
 セサルモ漁撈期タル四月乃至十月ノ候ニ
 於テハ多数ノ水産従業者來島、往復スル
 爲要塞ノ警備及防諜上ノ禁制確守ニ
 ツキ注意ヲ倍蓰セザルベカラズ之が爲メ
 ニハ權威アル指令ニヨリ非違者ニ對シ
 法的制裁ヲ以テ臨マントスルニアリ
 二、各砲台ノ第一区(基線ヨリ千米以内)内ニハ

漁場ヲ設置セシメザルト共ニ現在此ノ圈内
 ニアル漁場ヲ速ニ除去シムルヲ要ス

(理由)

本島ハ風雪ト寒冷ノ爲樹木大ナラズ
 故ニ砲台ハ恰モ裸地ニ設置セラレタル如ク
 上空ニ對シテハ勿論、地上及海上ニ對シテモ
 遮蔽及偽裝共ニ困難ナルヲ一般トス
 殊ニ附近ニハ高地アリテ砲台ヲ窺ヒ得ル
 狀況ナルヲ以テナルベク築城地帯ニハ
 部外者ヲ近ツケシメザルヲ必要トス
 之が爲現存ノ漁場ト雖トモ一切コレヲ
 除去セシムルヲ必要トス而シテ一部ヲ
 殘置セシメ得ル如キハ片午其落ノ誹
 アルヲ以テ最初ニ於テ一率ニ第一区内ノモノ

ハ除去スルヲ要ス
之ガ爲ニハ或ハ個人ノ權利ニ関スル問題
有之ベキモ關係官廳ヲシテ國防ニ協力
セシメテ接携スルヲ要スベシ 所見ノ細部
ニ關シテハ次項ニヨル
現在ニ於テハ軍ニ柵ヲ廻ラシテ構内ニ入レ
ザルヤク注意ヲ喚起スル程度ニテ法的
價值ナキヲ以テ明春漁撈期ニ對シ頗ル

憂慮シアリ

三、要塞地帯ヲ設定スル爲ニハ充分豫メ
關係各省並ニ北洋漁業關係者ニ對シ
特ニ前項第一区内ノ漁場放棄ニツキ諒解
誓約セシムルヲ要ス
(理由)

當要塞ノ砲台第一区内ニハ各地区共ニ
數個ノ漁場アリテ數棟乃至十數棟ノ
建物ヲ有シ簡單ナル船着場ヲ有スル
モノサヘアリ 而シテ其ノ位置甚シク
築城ニ近接セルモノ或ハ建物ノ高度
砲台ヲ瞰制スルモノ等アリテ防謀上
頗ル憂慮ニ堪ヘザルモノアリ 其現況
附圖第三ノ如シ 故ニ要塞司令官
トシテ之レガ使用ヲ停止セシメント欲ス
然レトモ彼等業者ノ位置ニ就キテ考テ
ルニ明春四月ニハ一ケ年ノ生計ニ全財産
ト半歳ノ日子ヲ賭シ所有ヲ準備ヲ以テ
來島スルナラン 蓋シ一家ノ浮沈ニ關スル
事業ナリ 然ルニ其ノ期ニ及ビテ司令部

が漁業ヲ停止セシメントスルモ彼等ハ自己
 ノ漁業權ヲ懸念命ニ主張シテ抗議ス
 ベシ即チ國防ノ為其生業ヲ奪
 ハンカ勢ヒ陸軍、内務、農林三省
 間ニ紛議ヲ醸スノミナラス現地ニ
 於テハ如何ナル事態ノ惹起スルヲ
 保シ難シ
 然リト雖トモ一度地帯ノ設定ヲ見ハ
 之レ國防上防謀ヲ強要スルモノニ
 シテ司令官トシテハ断乎法ニ基キ
 テ必要ナル處置ヲナサザルヲ得ス
 故ニ本地帯設定ト之ガ爲ニ起ル
 ベキ現地ノ實狀並ニ法的解決法等ニ
 関シ豫メ關係廳並ニ漁業當事者
 等ト充分ナル協議ヲ遂ゲ業者ガ
 準備ヲ開始セザル以前ニ於テ彼等ガ
 當然ノ結果トシテ充分ナル瞭解ノ下
 ニ軍ノ希望スル如ク所要ノ漁場ヲ
 停止セシムル如ク指導スルヲ要ス
 本件ハ個人生活ト北洋漁業ノ振興
 トニ關スル重大問題ニシテ種々ノ
 經費ヲ伴ヒ軍ニ國防ノミヲ以テ
 終結スベキモノニ非ザルガ故ニ特ニ
 所見ヲ述ブルモノナリ

第五、交通、通信ノ便ヲ速ニ講スル件

一、内地本土ト北千島間ニ冬期ト雖トモ連絡可能ナル如ク軍ノ命令スル汽船航路ヲ速ニ開設シ少クモ一月ニ一回ノ交通ヲ可能ナラシムルヲ要ス

(理由)

五月乃至九月ハ便船ヲ得ルコト容易ナルモ其他特ニ冬期ニ於テハ交通杜絶スカクテハ業務滯滞スルノミナラス重要諸件ニ欠陥齟齬ヲ來スノ虞頗ル多シ

二、内地本土ト北千島間並ニ本要塞内ノ通信施設ヲ強化シ常ニ完全ナル連絡ヲ保持セシムルヲ要ス

(理由)

一、目下内地本土ト北千島間ノ連絡ハ一、飛軍無線ヲ以テ北千島—函館間ヲ三、號軍無線ヲ補助トシテ北千島—落石間ヲ連絡シアルモ時ニ故障ヲ起ス故ニ本施設ハ一層強化シテ常ニ完全無事故ノ固定無線ヲラシムルヲ必要トス蓋シ現況ニ於テハ無線ハ唯一無ニノ本島連絡機關ナレバナリ

二、本要塞内司令部ト各砲台間ノ連絡ハ目下有線電話加設シアルモ風雪激シキトキハ故障多シ(現ニ十月二十日乃至二十三日ノ吹雪ニハ

附表第一

北千島要塞司令部員配布要領一覽表

備計	別飛地區	警備地區	蔭湖地區	田山地區	衛生部	區經理部	地		原副官部	相企副部	司令官	地區分	
							砲兵部	工兵部				中司令官	中副官
一											一	中司令官	中副官
一												中副官	中副官
二							一	一				中副官	中副官
一												中副官	中副官
一												中副官	中副官
一												中副官	中副官
一												中副官	中副官
八												計	計
二	二	二	二	二	一		六	三	二	一		下官	下官
五	二	二	三	二	一	八	一六	四	〇	二		備人	備人
七九	四	四	五	四	三	九	二	三	八	一	三	計	計

定員八十八名ナルモ、技手二名ハ欠員ノ爲メ、總員七十名トス

四ヶノ砲台全部ノミナラス司令部所在地相原ニ於ケル各所間ノ連絡サヘモ全部不能ニ陥リタリ。風雪激シク且ツ多キ當地ニ於テハ地下埋線ノ電話線トスルヲ要ス。又三號無線ヲ各砲台ニ配置シテ電話ノ補助トナスヲ必要トス。現在ハ二ヶ所ニアルヲ以テ尚ホ二ヶ所ニ増設スルヲ可トス。

陸軍

陸軍

附表第二

陸軍

北千島要塞直接警備所要人員一覽表

區分地區	將校(中少尉)		下士官		上等兵		二等兵		衛生士官又兵	計	摘要及任務
	將校	中少尉	工兵司令	給養係	步哨係	營舎係	步哨要員	喇叭手			
柏原	一	一	三	一	三	三	一	一	一	三五	
田山	一	一	三	一	三	三	一	一	一	三五	
蔭瀨	一	一	三	一	三	三	一	一	一	三五	
鷺崎	一	一	三	一	三	三	一	一	一	三五	
別飛	一	一	三	一	三	三	一	一	一	三五	
計	五	五	一五	五	一五	一五	九〇	二〇	五	一七五	

備考
 一、本衛兵ハ三交代トシテ三組宛ヲ準備スルモノトス。
 二、本人員ハ最少限ヲ示スモノトス。
 三、冬季風雪寒威激シキ時ハ一層人員ヲ増スヲ要ス。

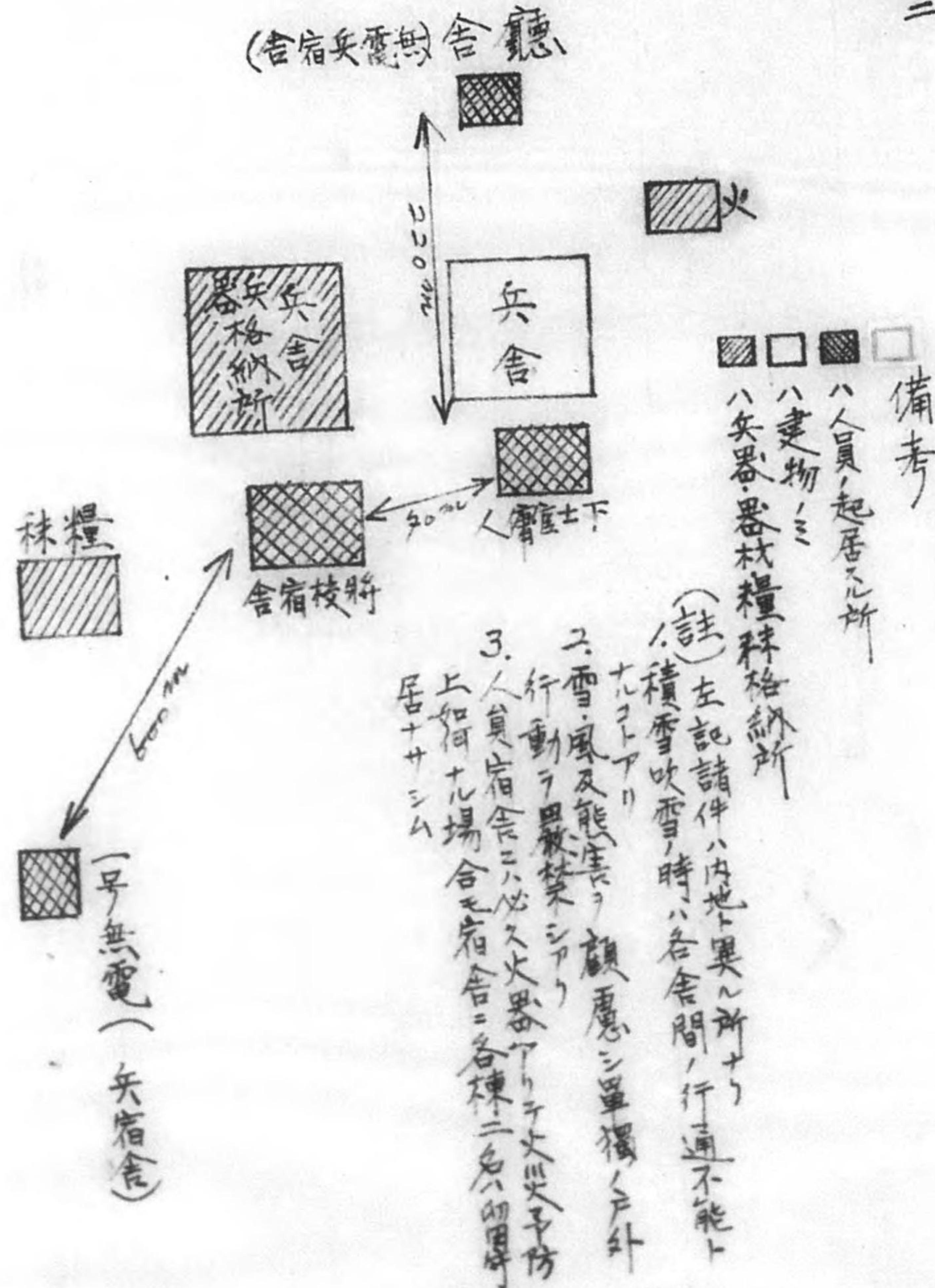
摘要及任務
 部隊指揮官ニシテ地區警備ヲ担任シ且部隊ヲ訓練ス
 給養及庶務一切ヲ担任ス
 炊事將校當番其他當番及衛兵交代要員トス

北千島要塞地區要圖



柏原地區軍用建築物配置要圖

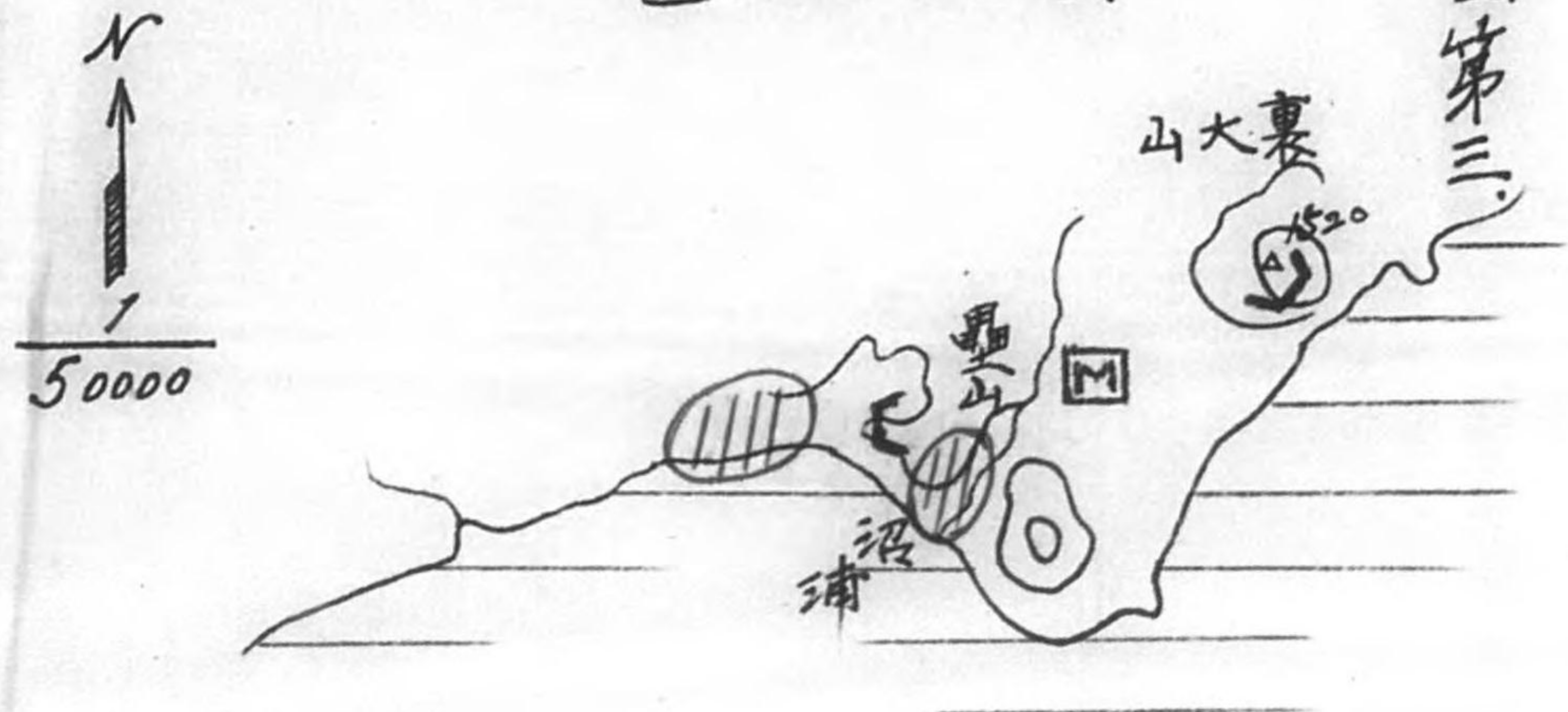
附圖第二



北干島要塞各地區漁場關係要圖

附圖第三

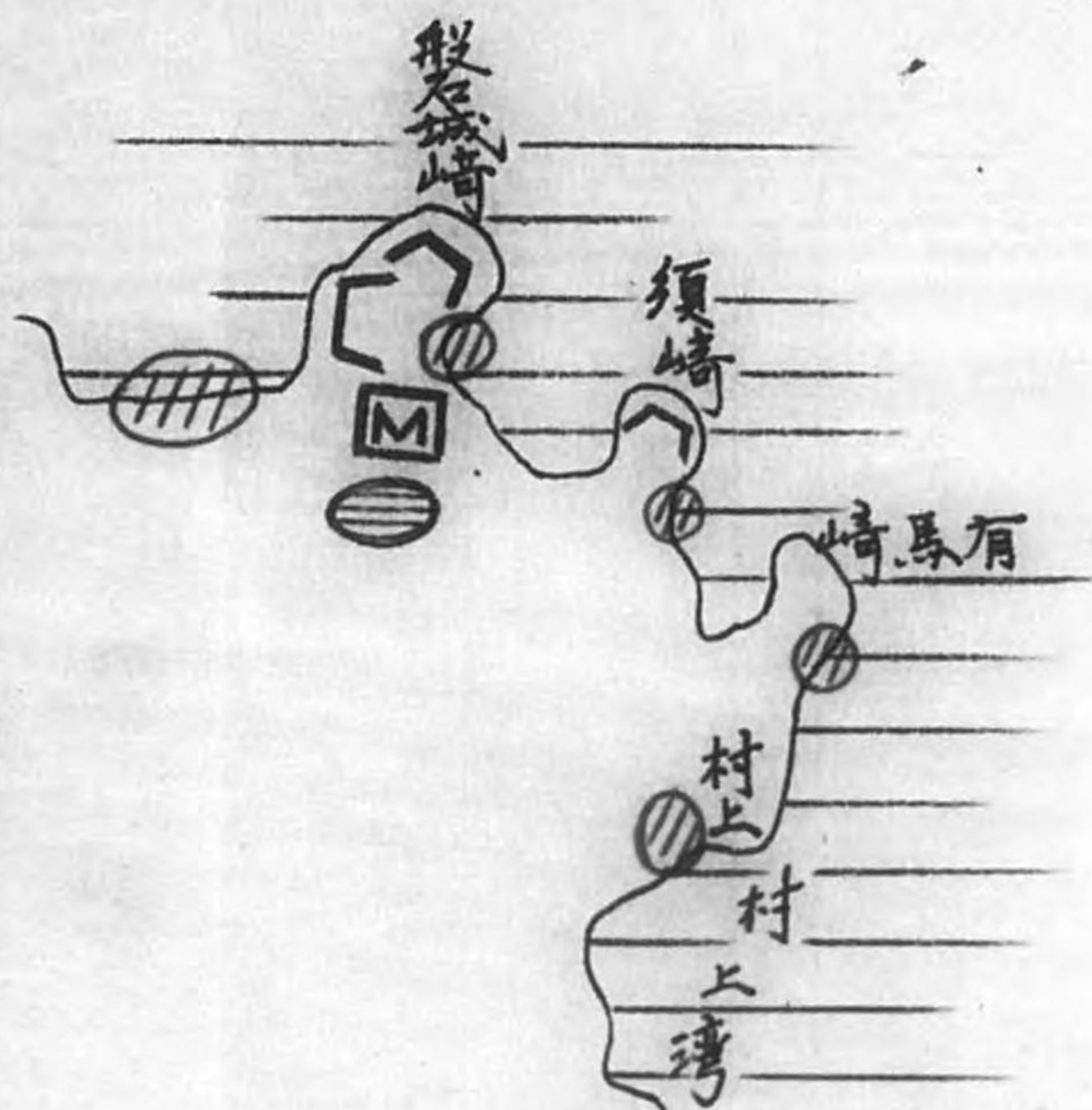
壘山地區



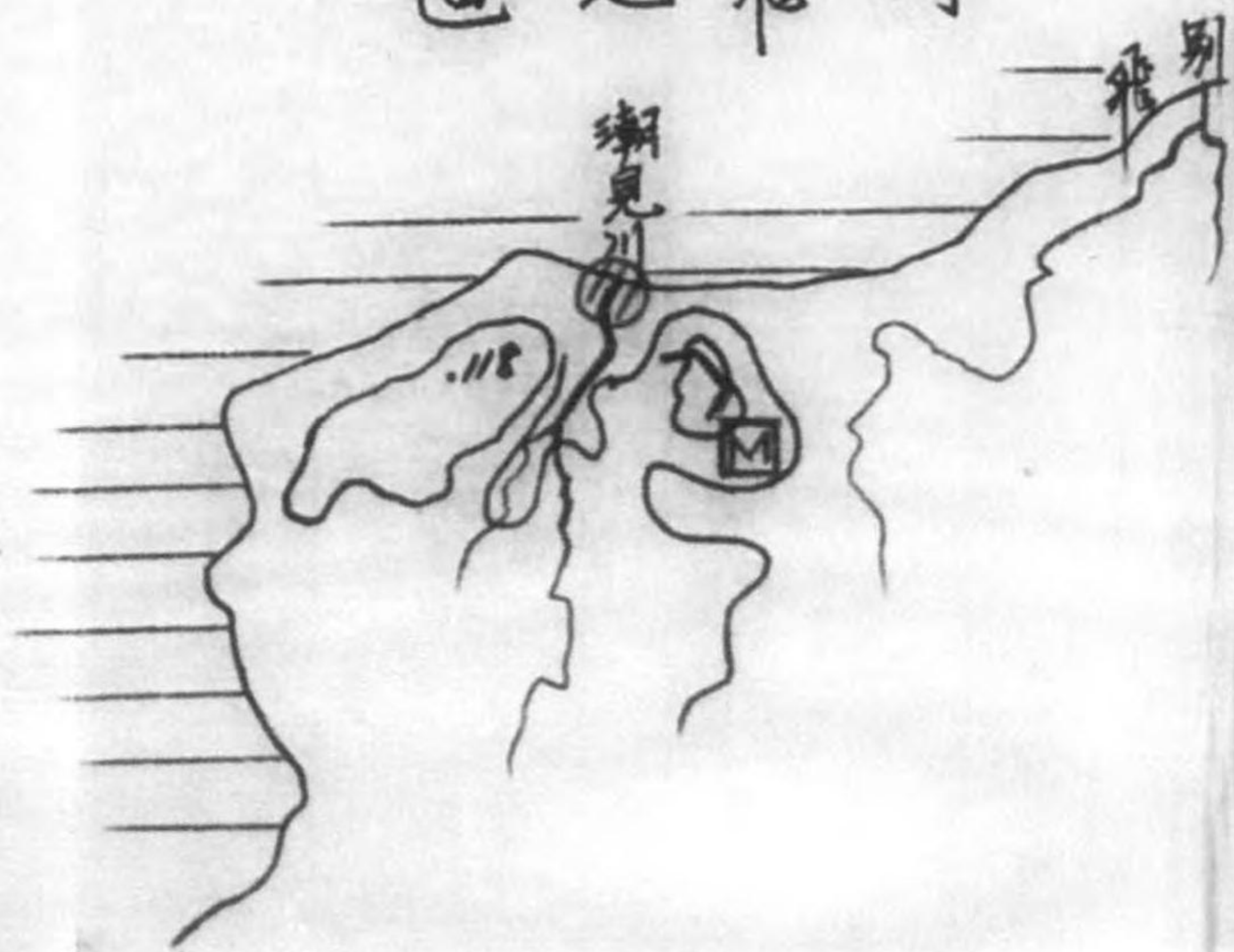
蔭、澗地區



磐城崎地區



別飛地區



註

- 一、 \square 砲臺 M 兵舎位置ヲ示ス。
- 二、 $\textcircled{///}$ 漁場建物位置ヲ示ス。各所ハ数棟乃至十数棟アリ。
- 三、相原地區ハ砲臺ナシ。各地區ニ準テ除去スルヲ要ス。之ヲ認ム。
- 四、本地區以外ハ築港建築ノ場合ニ於テハ軍ヲ要求ス。應セシムルヲ要ス。

暗

部 隊 長	
北隊部參北	
長隊部務主	
長隊部副北	
任 主	
任主寫淨	
昭 和 11 月 年 月	
日 發	

發送 師旭 參電第一四號

名宛 北4島 小林部隊長

隊部係關 北副部隊 北參部隊 北兵部隊 北經部隊 北醫部隊 北獸部隊 北法部隊

名出差 參謀長

北電第20号件 中央部ト連絡セシニ
付決定次第通知ス

暗

師 團 長	
司令部附少將	
參謀長	
主務部長	
高級副官	
任 主	
任主寫淨	
昭 和 11 月 年 月	
日 發	

發送 北中参電 第一五号

名宛 津島司副官

部 保 關 副官部 參謀部

名出差 參謀長

農林省所有汽船一月申ニ北4島ニ航海ス事
定テ及テ該船ヲ運送ス及小林部隊ニ廻航セシム
ル如ク午既中ニ付 小林部隊宛 物品送
問答等事 留子宅ヨリ 收集ホセテ送ル

度 通 帯

班報 15.12.18 第343番

班報 15.12.18 第300号

参

官副	謀參丙	謀參乙	謀參甲	長謀參	長團師
松田			堀	老	

又

高橋

本報より送付

員數 至急返

北千島宛 托送 スベキ 汚物ノ種類

本文 参電第一七七號

参謀部 巨以 宛 發信者 参謀本部庶務課長

昭和 15年

12月

27日

日午前後

19時

18分

陸軍 發

受付

四八〇

暗電報

暗電報

發信者 有為 陸軍 庶務課

電報翻譯紙

陸軍 旭川師司令部 15.12.28 普通受付

尙留守宅ヨリ収集シタル物品ヲ津輕要塞司令部
於テ保管シヨリ

官副	謀參丙	謀參乙	謀參甲	長謀參	長團師

電報翻譯紙

暗・平
暗電報

昭和16年 / 月 / 日
 11 午前
 12 午後
 13 午前
 14 午後
 15 午前
 16 午後
 17 午前
 18 午後
 19 午前
 20 午後
 21 午前
 22 午後
 23 午前
 24 午後
 25 午前
 26 午後
 27 午前
 28 午後
 29 午前
 30 午後
 31 午前
 32 午後

配布先 參・副・兵・經・醫・獸・兵地・職・電

參謀長

本文運船第一號

旭師參電第二五號

白鳳丸ヲ函館ニ寄港セシムルハ運航計更

上困難ナルニ付鐵道輸送ニテ根室ヨリ塔載

相成度

白鳳丸八月十七日根室著十九日根室發

陸軍 池田兵

暗

暗

汽船寄港ニ関スル件

發送番號 參電第二五號

宛名 陸地測量部長

名出差 參謀長

農林省白鳳丸函館港ニ寄港セシムルシ度
 北ノ島小林部隊ヨリ要求アリタル資材蒐
 集及塔載ノ關係上

將少附部司令

長謀參

長部務主

官副級高

任主

任主寫淨

司令部附 兵器部 經理部

軍醫部 獸醫部 法務部

電報班 15.12.2

昭和16年 月 日 發

暗

部 隊 長	部 務 主	部 副 長	主 任	主 務 寫	出 差 名	關 係 部 隊
北隊部參北	長隊部務主	長隊部副北	北副部隊 北參部隊	北經部隊 北兵部隊	北醫部隊 北獸部隊 北法部隊	北參部隊 北經部隊 北兵部隊
農林省所有白鳳丸					北島要の差	
旭参電					北司令官	
北電第20号返					参謀長	

昭和十六年一月十六日
 加納部科長
 平報班
 16. 1. 6.
 第3号

受	月	日	時	分
發	月	日	時	分

昭和十六年一月十六日
 昭 和 拾 六 年 壹 月 六 日
 發 調

尚貴郵宛物品托送又
 又
 一月十九日根量港突予定陽延島三週航
 北電第20号返

シテ其ノ運航票本日發送又

陸軍

北千島ニ關スル意見ニ對スル回答

昭和十六年一月十日

參謀本部第四課



昭和十五年十一月三十日附北要庶第一七號ヲ以テ提出セラレタル首
題ノ件ニ關スル參謀本部及陸軍省ノ意見別冊ノ如ク回答ス

軍事機密

北千島ニ關スル意見ニ對スル回答

昭和十六年一月十日
參謀本部第四課

陸軍

第一 現要塞ニ平時ヨリ兵備ヲ増強スル件ニ就テ

- 一、平時ヨリ貴意見第一第二項記述ノ兵力ヲ常駐セシムルコトハ望ム所ナルモ今遽カニ詮議シ難ク差當リ現状ヲ以テ忍ビ狀況悪化ノ場合ニ關シテハ中央ノ處置ニ信侍セラレ度
- 而シテ平時ニ於ケル砲臺等ノ警戒ニ關シテハ施設（鐵條網等ヲ嚴重ニ圍繞ス）ニ依リ人員ノ不足ヲ補フコトトシ此際敵ノ不法攻撃等アル場合ノ警戒ノ不備ニ關シテハ中央ニ於テ責ヲ負フヘシ
- 前項警戒施設ノ増強ハ來ル四月航路回復ト共ニ中央ニ於テ實施ヲ計畫シアリ 又四月以降來島スル日本人漁業關係者ハ北千島ノ特殊性ニ鑑ミ之ヲ敵ト見做サス軍民協力國防ヲ全ウスルノ主旨ヲ明ニシ之ヲ指導シ其ノ成果ヲ擧クル如クセラレ度
- 二、第一項ノ回答ニ同シ
- 三、要塞附帯兵備ニ關シ
- (1) 平時ノ對空監視（對空ノミナラス對海上モ）

在島スル各官民（例ヘハ燈臺、測候所、無線電信所）ヲ指導教育シテ其ノ目的ヲ達成スル如ク努メラレ度之カ爲必要ナル通信網ハ軍ニ於テ施設スルト共ニ民ノ通信モ之ニ即應スル如ク組織的ニ改變ヲ指導スル要アリ

(2) 通信網

イ、無線通信網ハ現編制ノ運用ニ依リ希望ノ通信可能ナリ

即チ壘山、藤洞、別飛ノ各砲臺ニ無線通信手各一名乃至二名ヲ配置シ司令部ニ七名ヲ配置セハ毎日一乃至數回ノ通信可能ナリ（無線機ハ九四式三ノ甲ニ及同内一ヲ使用ス）

只、有線通信網ハ斷線セサル如ク施設スルコトハ必要ニシテ四月以降ニ於テ更ニ増強スル如ク研究中ナリ

ハ、海上航通警戒等ノ船ハ目下準備中ナリ

四、對空兵備ヲ増置スル件ハ國軍全般ノ防空兵力上早急ニハ實現困難

ナル狀況ニアリ

五、電燈（探照灯）ハ昭和十六年度帝國陸軍國土防衛計畫訓令ニ基ク指示ニ於テ四基ヲ配當セリ

第二 北千島ニ平時有力ナル兵備ヲ準備スル件ニ就テ

一、占守島ニ平時ヨリ有力ナル部隊ヲ配置スルノ件ハ「第一」中ニ述
 ヘタルカ如ク現況上困難ナルモノアリ有事ノ場合ノ對策ハ其ノ以
 前ニ於ケル中央ノ處置ニ信賴セラレ度
 二、幌筵海峽兩側地帯及占守島ヲ全部ヲ要塞地帯トナス件ニ關シテハ
 後述ス

第三 北千島ヲ陸軍ニ移管ヲ受クル件ニ就テ

今次軍ノ北千島進出ハ軍事上ノ要求ニ基ク外更ニ軍カ國策遂行ノ先
 驅トナリ將亦後據トナリ以テ北千島ノ發達ヲ期センカ爲ニシテ軍ノ
 進出ニヨリ民業ヲ壓迫スルハ本旨ニアラス
 民ハ軍ノ後方ヲ培養スル根基ヲナス 民榮エテ航通ヲ増シ生活ヲ
 容易ニシ軍ノ生存ヲ安固ナラシム 北千島ノ特性ハ軍民一体民ヲ
 國民義勇軍的ニ指導強化スルコトニヨリ其ノ防衛ヲ一層不動ノモノ
 トナスヲ得ヘシ
 從來モ北千島ハ全部國有ニシテ民ハ北海道應ノ許可ヲ得テ事業ヲ經

營シアリ今後ハ北海通應ヲシテ許可ニ先タチ軍中央部ニ意見ヲ徵セ
 シムル如ク指導シアリ故ニ民ノ施設ノ許否ノ大綱ハ軍中央部ニ於テ
 決定シ現地ニ於ケル細部ニ關シ貴方ニ於テ處理スル如ク承知相成度
 カクノ如キヲ以テ今遽カニ北千島ヲ陸軍要地トセサルモ支障ハ起ラズ
 ルモノト思考ス

一方北千島ヲ全部陸軍用地トスル時ハ民ノ事業ノ經營管理ニ至ル迄
 軍ノ處理ヲ要スルコトトナリ其ノ煩ニ堪エサルノミナラス
 實情ニ即セサルヘク適當ナラサルモノト思考ス

第四 北千島ニ要塞地帯ヲ設定シ關係者トノ
 協調ヲ密ナラシムル件ニ就テ

一、要塞地帯設定ハ法的威力ヲ強化スルノ利ハ認ムルモ一方之ヲ公表
 スルヲ要シ 然ル時ハ目下秘密ニナシアルヲ過早ニ暴露スル害
 アリ 故ニ島内ノ取締ハ軍機保護法ト來島者ノ精神教育トニ待チ
 其ノ實効ヲ收ムル如クシ地帯設置ハ今暫ク保留スルヲ可トス
 二、砲臺ヲ瞰制シ得ル如キ位置ハ建設ニ方リ豫メ立入禁止ノ柵内ニ包含

スル如クナシタル管ナルモ尙斯カル位置ノ残リアラハ立入ヲ禁止
 スル如ク所要ノ施設ヲ設クルノ要アリ 四月以降更ニ補備スル如ク研究スヘシ
 三、北千島ノ特性ニ基キ軍民相互協力シテ生存警戒ニ遺憾ナキヲ期ス
 ル主旨ニ於テ砲臺等モ建設セシアルカ故ニ砲臺建設ニ伴ヒ既存ノ
 漁場ヲ撤退セシムル適當ナラス 前諸項ニ於テ屢々記述セル如
 ク軍民協力シテ軍ノ利益ヲ保護シ民業ヲ發展セシムル如ク考慮指
 導セラレ度

第五 交通、通信ノ便ヲ速ニ講スル件ニ就テ
 一、四季ヲ通シ命令航路ノ實現ハ早急ニハ困難ナルモ逐次實現スル如
 ク考慮シアリ
 二、通信施設ニ關シテハ前述セハ所ノ外北千島一大陸トノ無線連絡ニ
 關シテモ實現セシムル如ク手配シアリ(十六年四月以降實現見込)

暗

暗

師團長	司令
參謀長	參謀
主務部長	主務
高級副官	高級副官
主任	主任
淨寫主任	淨寫主任
昭和16	昭和16
年月日	年月日
分	分
時	時
月	月
日	日
發	發

北千島要塞準備計畫
 北千島要塞準備計畫
 北千島要塞準備計畫

參謀本部總務部長
 參謀本部總務部長
 參謀本部總務部長

參謀長
 參謀長
 參謀長

計畫訓令及訓令ニ基ク指示ニ依リ該要塞司令
 計畫訓令及訓令ニ基ク指示ニ依リ該要塞司令
 計畫訓令及訓令ニ基ク指示ニ依リ該要塞司令

官ハ船舶輸送ニ關スル人員兵器材料等揚
 官ハ船舶輸送ニ關スル人員兵器材料等揚
 官ハ船舶輸送ニ關スル人員兵器材料等揚

陸軍畫ノミヲ作製スルニト見解スルモ差支
 陸軍畫ノミヲ作製スルニト見解スルモ差支
 陸軍畫ノミヲ作製スルニト見解スルモ差支

加納班
 電報班
 16. 1. 13
 發着

官副	謀參丙	謀參乙	謀參甲	長謀參	長團師
	持		堀		

電報翻譯紙

暗

冊・平

電報

譯者

中井

陸軍

陸軍

10

付軍

昭和十六年一月九日
 日午前 日午前 日午前
 時 時 時
 分 分 分
 電報班受付 電信局所受付
 番 番
 號 號
 七六七六
 二九〇九

配布先 參・副・兵・經・醫・獸・兵地・職・電

參謀長宛 發信者

本文北要動電第一號

戰備計畫書作製一件

昭和十六年度帝國國土防衛計畫訓令

別冊附表第九 備考其一 及昭和十六年

度帝國陸軍防衛計畫訓令之其五指示

第一條迄二軍令陸甲第四九號附則

官副	謀參丙	謀參乙	謀參甲	長謀參	長國師
松					

電報翻譯紙

暗電報

暗

昭和16年1月20日 午前午後 20時 陸軍發
 午前午後 10時 55分 電信局所受付
 午前午後 0時 0分 電報班受付

配布先 參・副・兵・經・醫・獸・兵地・職・電

齋藤 軍

陸軍司令部
 1.21
 普通

參謀長 宛 發信者 參謀本部庶務課長

本文參電第一五三號

旭師參電第五三號返

北千島要塞戰備計畫ハ該要塞

司令官之サクテイスルモノト承知相成度

一 依ル 迄ニ當要塞戰備計畫ノ作製ハ參謀
 本部ニテ擔任シ當部ニ於テハ船舶輸送ニ関スル
 人員兵器材料等ノ揚陸計畫ノミヲ作製
 報告判明セラルト見解ス差支ナキヤ貴意問フ

官副	謀參丙	謀參乙	謀參甲	長	長團師
信	信	堀			

昭和 16年 1月 30日 午前午後 11時 11時 10時

配布先 參・副・兵・經・醫・獸

宛 發信者

齋藤 軍 陸 龍川 師 30

師團長 宛 發信者

本文 北要度電第三〇號

吉村少佐以下五名戰備計画作製、

爲本二十九日十四時「白鳳丸」ニテ「柏原」

出港 函館ニ出發セシム 北要度第二六號

及第二七號、件望ミナキモ「爾後、交通」ヲ

予期シ得サル爲右ノ処置ヲ取レリ

電報翻譯紙

暗

電報

發信者

齋藤

軍

陸

龍川

師

暗

暗

北要度電第二六號

津輕要塞司令部ニ出張ノ件 差支

（意中モ未得ノ限リ期日ヲ短縮スル妙）

如ク大ニ度

師團長 宛 發信者

齋藤 軍 陸 龍川 師 30

北要度電第一號

北要度電第二六號

津輕要塞司令部ニ出張ノ件 差支

（意中モ未得ノ限リ期日ヲ短縮スル妙）

如ク大ニ度

名	件	長	團
將少附部司令			
長	謀	參	
長	部	務	主
官	副	級	高
任	主	寫	淨
司令部附	兵器部	經理部	
軍醫部	獸醫部	法務部	
昭	和	16	
年	1	29	
月	1	29	
日			
發	送	主	任
受	發	日	月
發	日	月	年

加印部 電報班 16.1.29 第40号

任主
官副 謀參丙 謀參乙 謀參甲 長 師團師

電報翻譯紙

暗

電報

昭和16年 1月28日
日午前後 9時
日午前後 10時
日午前後 10時
參・副・兵・經・醫・獸

配布先 參・副・兵・經・醫・獸

師團長 宛 發信者 小林部隊長

本文 北要度電第二十八號
便船二十日入港、材料塔載ニアリ
北要度電第二十六號、件至急返相成度

齋藤

陸軍司令部 16.28 普通

官副 謀參丙 謀參乙 謀參甲 長 師團師

20

暗

電報翻譯紙

電報

昭和16年 1月25日
日午前後 10時
日午前後 15時
日午前後 15時
參・副・兵・經・醫・獸

配布先 參・副・兵・經・醫・獸

師團長 宛 發信者

本文 北要度電第二十六號

一 旭師參電第六六號ニ係ル計畫作製
事務連絡上但シ當地ニハ基準書類
整備不充分ト今後交通杜絶スルトノ爲
主任 吉村少佐 助手 佐々木曹長
筆生 一名 白鳳丸ニテ函館要塞司令

中井

陸軍司令部 16.26 普通

新 報 報

電報翻譯紙

昭和16年

暗

電報

齋藤軍

陸軍部 16. 28 普通

配布先 參・副・兵・經・醫・獸

日午前後	日午前後	日午前後
11時	11時	10時
45分	30分	0分
電報班受付	電信局所受付	送館發

師團長 宛 發信者 小林部隊長

本文 北要度電第二十六號

一、旭師營電第六大號ニ係ル計畫作製事

務連絡上 但シ当地ニ基準書類整備

不充分ト今後交通杜絶スルトノタメ主任

吉村少佐 助手佐々木曹長 筆生一名

白鳳丸ニテ函館要塞司令部ニ出張

三

一、部ニ出張ノ上ニ作製セシメタシ
 二、勤務期間ハ二月ヨリ七月中旬ニ互ル約
 三、八〇日トシ此ノ間ノ宿炊給養連絡出張
 等ノ件函館要塞司令部ニ依頼スル豫定

任主
記
松田
堀
本

電報翻譯紙

暗・平



電報

翻譯者 中

井 曹

師團司令
16.1.24
陸軍通受付

軍

昭和16年1月23日

配布先 參・副・兵・經・醫・獸・兵地・職・電

日午前後	10時	20分	發	受
日午前後	11時	0分	發	受
日午前後	11時	15分	發	受

上野香發
電信局所受付
電報班受付
二七二
六四

參謀長

宛 發信者

參謀

本文 樺參電第四號

暴風吹雪、為東海岸鐵道線(白浦元泊間)交通杜絶ス、當分開通、見込ナシ



電報翻譯紙

暗・平

電報

翻譯者

陸軍軍曹中井紀久

陸軍
1.23
附

長 參 甲 參 乙 參 丙 書 記

昭和16年1月23日

配布先 參・副・兵・經・醫・獸・兵地・職・電

日午前後	10時	20分	發	受
日午前後	11時	0分	發	受
日午前後	11時	15分	發	受

二六二
〇一

師團長

宛 發信者

本文 北要庶電第二四號

二一日夜北十島水産備船二〇號

暴風ノ為陸上ヨリ波ニ浚ハレ大破ス目下

波高ク船體ニ近ツクヲ得ズ詳細後報ス

二同夜石炭二五〇〇俵新四〇〇〇本

流出ス要塞部員越年ノ為燃料ニハ支障ナシ

暗

番号 發送	名 件	長 團 帥	將少附部令司
			長謀參
名 宛	小林部隊長	官副級高	代 堀 長部務主
			任主
名 出差	參謀長	司令部附 兵器部 經理部	任主寫淨
			軍醫部 獸醫部 法務部

加師團司令部
電報班
16.1.23
發着 30

昭和
知
分
月年

日
發
日
調

水産漁船流出事故頻発スルニ鑑、特ニ
陸上撃留施設ヲ監視シ最ニヤ
之ニ角今斯ル事故十中標注意セラル、及
係令

二、同夜石炭三五〇俵薪四〇〇〇本流出ス
要塞部員越年ノタメ燃料支障ナシ



経 由

官	副	謀	参	西	謀	乙	謀	長	謀



電報翻譯紙

暗・平 電報

昭和 16 年 2 月 8 日	日午前後	9 時	55 分	函館 發	番 受
	日午前後	11 時	10 分	電信局所受付	番 付
	日午前後	12 時	30 分	電報班受付	番 付

師團長 宛 發信者 北千島要塞司令官

本文北千島要塞第一三號

二月二日暴風激り破損流失シニ。號二月四日引揚ラ完了ノ破損概要ヲ左ノ如シ

(イ) 般体ハ操舵座破損流失シ小反五個所アリ

(ロ) 機内部ハ重油タンク一、エヤータンク一、

ハイテンバン發電機一、バッテリー三、



附部	官	謀	参	西	謀	乙	謀	長	謀



電報翻譯紙

電報

翻譯者

陸軍軍醫中并紀

昭和 16 年 2 月 11 日	日午前後	13 時	55 分	函館 發	番 受
	日午前後	15 時	30 分	電信局所受付	番 付
	日午前後	15 時	50 分	電報班受付	番 付

配布先 参・副・兵・經・醫・獸・

師團長 宛 發信者 北千島要塞司令官

本文 北千島要塞電第五一號

旭師參電第九九號受領ニ感敷ニ堪ヘズ

將來充分注意ス

災害防止ヲ期ス



官制



秘

北要工第一三號

備船被害詳報提出ノ件報告

昭和拾六年五月廿九日 北千島要塞司令官小林俊

旭川師團長國崎登殿

曩ニ電報ヲ以テ報告セシ當部備船
 二十號海龍ノ被害詳報別紙
 通提出ス



旭川師團司令部
 10.2 陸軍
 普通

軍

パイプマワリ一スバナ類一式流失セリ
 細部ハ筆記ヲ以テ後報ス。二回ニワタル
 備船災害ニ関シ司令官トシテ責任ヲ感ズ
 謹シテ進退ノ旨ヲ伺ヒス

進退ノ旨及キルニ付テモ

備船被害報告

一、發生年月日

昭和十六年一月二十一日二十二時ヨリ翌二十三日

三時ノ間

一、罹災場所

北干島幌筵島柏原海岸

(北干島水産株式會社所有汽罐場北方約三十米)

一人馬死傷ノ狀況

ナシ

一、動産不動産被害ノ狀況及程度

北干島水産株式會社ヨリ備船中ノ
發動機船「二十號」海龍ハ各砲台巡視
及連絡用ノ為去ル十九日迄水率備
ヲ實施シ船体ハ波浪ヲ顧慮シ滿潮

海水面ヨリ約十米突(船尾)ノ陸上ニ
位置セシメ緊留アリ而シテ海
上ノ繫船ハ危險ナルニ付使用後直
ニ陸上ニ引揚タル為北干島水産會
社備付蒸氣巻揚機ヲ使用スヘク蒸
氣汽罐ニ焚火シ監視ノ為汽罐七一
船員ニヲ汽罐場ニ宿泊セシメ船ノ
監視ヲ兼ネシメアリ
蓋シ當要塞柏原地区ノ人員ヲ以テ
シテハ到底人力揚陸ハ困難ナレバ
ナリ
船ノ位置ヨリ約三十米(二十一日十時
頃)ヨリ東南ノ烈風(風速十五米)アリシ
七波ハ大ナラス二十一時頃監視員ノ

巡視、際ハ船尾ヨリ四五米附近マ
 テ積雪残リアリ風波モ其後大ナル
 変化ナキ模様ナリキ然ルニ夜半ヨ
 リ風速次第ニ加ハリ二十三日頃
 二十號海龍ハ緊留網ヲ切断海中ニ流
 出、敷浪ニ翻弄セラレ至レリ此
 間司令部ニ報告セントセシモ途中
 暗夜ト吹雪ニテ視界定マラス加フ
 ルニ積雪ハ取テ没シテ歩行困難ナ
 ル為急速海潮ノ激変ニ應ンテ連絡
 扶援共ニ不可能ナリ且テ船体ハ
 海岸線ニ沿ヒ次第ニ北方ニ異動シ
 十四時干潮ヲ利用シ辛シテ船体
 緊留ニ流失ヲ防キタルモ夜浪ハ日

没ニ到ルモ依然大ニシテ之ヲ為監
 視ニ下士官以下七名現場附近ニ位
 置セシメ二十四日拂波浪ノ静マリタ
 ルニ付損害程度調査セシニ船体ハ
 操舵室破損流失厄艇レール損障左舷
 船首附近約十五種ノニケ所穿穴セラ
 ル機関ハ別紙ノ通り
 一、損害見積價格ノ概要
 當部船員(元北干島水産株式會社船員)談ニ
 依レハ二十號海龍ハ一昨年新造ニ新造費全
 一万五千糸ト南ケリ尚損害見積價格ハ當
 地ニ於テ計上シ得ス

一、處置

二十號海龍ハ揚陸ノ為二十八日陸上陸ノ構築

ヲ了シ目下揚陸ヲ急キツノアリ揚陸セハ直ニ
機庫ノ細部莫檢及手入ヲ行フ予定ナリ

一復舊ノ要否

「三十號海龍ノ船体ハ流失セル操舵室ヲ新調
セハ其他修理ニテ再用可能ナル見込尙機
庫ニ修理セハ再用ニ堪ユルモト思考ス

一其他ノ必要ナル事項

當日ノ氣象ハ天候吹雪風位南東風速
一五八乃至二四米 氣圧最高七四九五最低七三三
(二十二日氣象風位東南風速一五六乃至二〇米
氣圧最高七五一最低七三一)ニシテ今回ノ時化
ノ状況ニ尙シ當地ニ七ヶ年越年セシ者ノ談ニ依
レハ今回ノ如キ時化ニ遭遇セシ事未タ無
シトノ事ナリ被害ヲ受ケシ海岸ハ潮位ハ

平時ヨリ約三米ヲ増シ等成傾斜ノ海岸ニ激
浪ノ爲一―五米ノ断崖トナリ陸上ニ繋留シ
アル他船舶モ船底ノ土砂浚渫セラレ正ニ流出
又ハ一部ニ出スモアリ 此附近ノ棧橋ニケ

所ハ何レモ損傷大破ス

尙海中ニ棲息スル蟹(甲ノ大サニ三十種)ノ草魚
等多數打揚ラレアル狀況ナリキ

(砲台ハハケ所 マリ要固ハ最ニ該要塞司令
部員提出ニマル道ナリ)

理由

年中暴風雨雪甚ニク有線通信設備ハ
一回モ破壊(切断)又ハ埋没シ通話不能
セウレシ状況ニシテ之カ補修ノ為陸行ヲ
企図スルモ氣象状態不良ノ為未ダ其機
ヲ得ス
又海上ハ一層困難ナリ

陸軍

ニ冬期ト雖モ月少クモ一回ノ汽船ヲ航
セシメラレ度

理由

冬ニ季節期間ハ殆ト航船皆無ノ状態ニシ
テ公用書類ノ往復人ノ往復入院患者
等ノ還送物品ノ送還送私物郵便
物ノ往復在島者ノ慰安等絶無ノ

有様ニシテ現在ノ連絡機關ハ無線ニ
依ルノミニテ業務連絡上甚ク困難ナリ

三要塞備付汽艇ヲ可成速ニ整備セウレ度

理由

該要塞ハ特種ノ位置ニアルヲ以テ之カ

整備ヲ必要トス現在ハ地方ノ船ヲ借用

シアルモ構造機能不完全ニシテ暴風雪

陸軍

ニ依リ再度破壊ヲ被リアリ完全完
備ノ船艇ヲ必要トス

四前項ニ関聯シテ船員ノ増加及船着場

並ニ繫船ノ設備燃料ノ貯藏庫汽艇

ヲ揚陸スル箇所ノ整備ヲ必要トス

理由

該地ハ年中風雨雪甚シク被害多ク

完全ナル準備ト整備ヲ為ササレハ該
要塞ノ完全ナル任務ヲ全ウスルコト困
難ナレハナリ

五該要塞ノ連絡所ヲ軍又ハ運輸部

近邊(部内ヲ一層可トス)ニ設ケ凡テノ

連絡ニ任セシムルヲ可トス

理由

陸軍

急ヲ西女スル事項ハ現在ノ連絡設備
ニテハ不完全ニシテ尚任務達成ニ支障
ヲ感スル状態ナリ

極秘

軍司令部經由

陸軍

旭師參甲第五二號

北千島要塞ニ關スル件上申

昭和十六年三月三月

旭川師團長

國崎

登

參謀總長 杉山 元 殿

首題ノ件ニ關シ左記事項實現方配慮相成度上申ス

左記

一、各砲臺間ニ無線器ノ整備ヲ必要トス

(砲臺ハ八ヶ所アリ要圖ハ義ニ該要塞司令部ヨリ提出シアル
通ナリ)

理由

年中暴風雨雪甚シク有線通信設備ハ二回モ破壊(切斷又ハ埋没
シ通話不能)セラレン狀況ニシテ之カ補修ノ爲陸行ヲ企圖スル
モ氣象狀態不良ノ爲末々其機ヲ得ス
又海上ハ一層困難ナリ

二、冬期ト雖モ月少クモ一回ノ汽船ヲ就航セシメラレ度

理由

冬季期間ハ殆ト就航船皆無ノ狀態ニシテ公用書類ノ往復入院患
者等ノ遠送、物品ノ追、遠送、私物郵便物ノ往復、在島者ノ慰
安等絶無ノ有様ニシテ現在ノ連絡機關ハ無線ニ依ルノミニテ系
務連絡上甚タ困難ナリ

三、要塞備付汽艇ヲ可成速ニ整備セラレ度

理由

該要塞ハ特種ノ位置ニアルヲ以テ之カ整備ヲ必要トス現在ハ地
方ノ船ヲ●^借用シアルモ構造機能不完全ニシテ暴風雨雪ニ依リ再
度破壊ヲ破リアリ完全完備ノ船艇ヲ必要トス

四、前項ニ關聯シテ船員ノ増加及船着場並ニ繫船ノ設備燃料ノ貯藏
庫、汽艇ヲ揚陸スル箇所ノ整備ヲ必要トス

理由

該地ハ年中風雨雪甚シク被害多ク完全ナル準備ト整備ヲ爲ササ
レハ該要塞ノ完全ナル任務ヲ全ウスルコト困難ナレハナリ

五、該要塞ノ連絡所ヲ軍●^又ハ運輸部近邊(部内ヲ一層可トス)ニ
設ケ凡テノ連絡ニ任セシムル可トス

理由

急ヲ要スル事項ハ現在ノ連絡設備ニテハ不完全ニシテ尙任務達
成ニ支障ヲ感スル状態ナリ

去年の
年々
二回

参謀長殿

北千島要塞のため

陸軍

通信線ハ予ニニ回直リ切斷又ハ埋設ニ有
線ハ通話不能ナリ

陸行ヲ企圖シテモ氣象状況不良ノ爲ニ未ダ
其機ヲ得ズ

海上ハ一層困難ナリ
無線ヲ石砲台若クハ救正備ノ要アリ

申請スルベキヤ

本年度當地ノ戦備ハ参謀本部担任ナリ
戰備實施ノタメテ大湊要港部ニ連絡ヲ要ス

連絡ノ機ヲ得ズ

先般ノ意見ヲ提出セシ衛兵ノ件ハ至急實現ヲ望ム
申請スルベキヤ

白風
コトヲ吉吉
佐以下五
名ヲ乗船
西館ニ至
張也

ヲナスヲ要ス

3 燃料ノ貯藏庫ヲ要ス

4 戦艦等ノ汽船ヲ揚陸スルノ設備ヲナスヲ可トス

三 今迄ノ状況ニヨリテ見ルハ横濱海峡内ハ天気が静

穩(月ニ数日ハアリ)ナルハ汽船ヲ交通可

能ナリ

但シ猛吹雪ノ代ハ汽船ト同様に揚陸セザレハ被

損又ハ流失ノ危険アリ

四 目下北千島水産會社ヨリ汽船一隊毎一船自

五名ヲ備入シテ四月又デノ約束ナレバ陸軍省

ヨリ汽船飛屬ヲ本約束ヲ延長スル交渉ノ

願度

(別ニ公文モ出スヲ旨)

陸軍

五 當留柏京ト内地本土トノ交通運輸ニ對シ

テノ希望的疑問

一 首題ノ運輸ハ陸軍運輸部ニ行ツカ

ニ、行フトスレバ

(一) 桑着港灣ノ件

(二) 運輸航予定ノ件

(三) 取扱官衙設置ノ件

(四) 運賃ノ件

等ヲ決定スル要ス

三 行ハストスレバ

(一) 運賃特ニ魚撈用船舶ヲ利用セシキ等

ノ協定ノ件

(二) 運賃支拂ハ何ヲ規程シ旅行客ニ

對スルヤノ件

(一) 人員、其何物輸送ノ証據ノ件
(二) 傭人等ノ募集、解雇ヲ何地ニ
スルヤノ件

何處、何日ヲ軍隊ノ傭人トシテ路費
スルヤ
等ヲ決定セザルベカラズ

五箇箇要塞ノ連絡所ヲ軍又ハ運輸部ノ近所
(部内ヲ二層目トス)ニ設テ凡テ一連絡ニ任
セシムルヲ可トス

陸軍

おれを言ひては武を想ひ
お防上并大尉入院ノ外自
之氣心昭勢家或者乃中味
心年知つ
公以迄我計化製衣の命
身つらむお差お中
と悔す！ 考ふも、等しとれは遠路
と要する。おあめ者お少衆

以下五名と要の生員であ
 中の一船を留置し申請せ
 ても返ふく船を認めざる
 九分ノ達上三時出帆と返候
 と候つていかな様と申す
 思ひありて送らば候へば
 海軍と云
 船舶二回と破損と申

沢々之と有の
 只前地の気象とお生り候
 と撃つ船の復佈とあり候
 今更のあり候
 種々の圍候あり申すも
 宜状と申す候とすべく
 損害の程が少く候島は
 調査あり候とあり候

官副	謀參	謀參	謀參	謀參	謀參
松田					

松田
經

電報翻譯紙

暗電報

昭和 16 年 2 月 24 日
 日午前後 15 時 10 分
 日午前後 15 時 40 分
 日午前後 15 時 20 分

配布先 參・副・兵・經・醫・獸

師團長 宛
 發信者 小林部隊長

本文北要度電第一七號

兵舎及廳舎破損ノ件報告

積雪ニ依リ柱ノ破損セルモノ及家屋ノ傾キ

タルモノ山寄ノ兵舎三棟後方廳舎一所

其他戸及壁ノ灣曲セルモノ數箇所アリ

除雪作業ハ極力實施シタルモ 二月初旬

翻譯者

杉田軍

陸

16.2.25
 普

官副	任主	計	乙	課	甲	長	課	長	課

以來ノ連續セル吹雪ノ爲積雪甚シク
 除雪間ニ合ハズ 雪ノ壓力ニ依リ生起
 セル被害ナリ 目下吹雪ハ尚止マズ 作業
 ハ鋭意實施中ナリ 人馬異状ナリ 志氣
 旺盛ナリ
 追而陸軍築城本部ニ八通牒済ナリ

北要出第五號

被害物品ニ関スル詳報提出件報告

昭和十六年二月二十一日 北千島要塞司令官小林

俊

旭川師團長 國崎 登殿

曩ニ電報ヲ以テ報告セシ當部採煖用石炭並炊事用
 薪ノ被害ノ詳報別紙ノ通提出ス

旭川師團司令官

16.2.27

通受付

軍

物品被害詳報

一、七失ノ場所

北千島幌筵島柏原海岸附近
(北千島水産株式會社所有倉庫前)

二月日時

昭和十六年一月二十一日二十時ヨリ二十三日五時ノ間

三、狀況

各砲台巡視及連絡、爲發動船ノ泛水準備並同船ノ引揚
用汽鑪使用ノ爲汽鑪士一名船員二名ヲ汽鑪場ニ宿泊セシメ
船ノ監視ヲ兼ネシメアリシガ二十三日三時頃監視人ハ巡察ノ際
前日準備シアリシ船舶ノ流失ヲ發見シ其ノ旨報告セント司令
部廳舎ニ向ヒ出發セシモ強烈ナル吹雪ト積雪ノ爲歩行困難ニ
シテ且進路定ラス危險ニ陥リタルヲ以テ一旦引返スノ止ムナキニ至リ
シモ機ヲ得テ六時三十分右報告ニ接シ直ニ關係者其他ヲ從ヘ現場

ニ到着シタル際ハ波浪ハ石炭及薪ノ集積シタル倉庫ニ迫リ
一波浪毎ニ石炭及薪ヲ數十俵(モ)宛流失シタルヲ發見シ直ニ
全員ヲ波浪ノ間隙ニ残余ノ石炭ヲ安全場所ニ運搬セシメシモ
作業中數回ニ亙リ全員頭上ヨリ波浪ヲ被リ危險ニシテ引
續キ作業ハ困難ナルヲ以テ運搬中止ノ止ムナキニ至ル 加フルニ波
浪ハ滿潮ニ隨ヒ益ニ勢力ヲ増シ残余ノ石炭及薪ヲ流失スルニ
至レリ

四、原因

當日ノ氣象ハ天候吹雪風位南東風速一五、六乃至二四米氣壓
七四九乃至七三三耗ニ十二日吹雪曇風速一五、六乃至二〇米氣壓七五一
乃至七三一耗ニシテ前記狀況ニ因ル

五、被害物品及其價格

品目	數量	單價	金額
石炭	一三〇五	三九五	四一九三五
薪	四〇數	一五七五	六三六〇
合計			四八三五五

摘要

積卸、爲梱包材料及陸軍港汽船積込運使會

右同

六、處置

被害物品ノ補填ハ即團經理部ニ調辦委託ノ豫定ナリ
將來ハ一層本格的氣象ノ調査ヲ行フト共ニ設備ヲ完備シカル

コト皆無ヲ期セントス

七、責任者ノ處分

將來戒メ特ニ處分セス

八、其他ノ必要ナル事項

昭和十五年十月三十日當部隊出發時函館ニ於テ採煖用トシテ石炭
四〇〇吨(六四〇俵)炊事用トシテ薪五〇數(五〇〇本)ノ交付ヲ受テ

タリシカ現地到着後各砲台ニ交付ノ分ヲ除キ速ニ廳舎及各宿舎
附近ニ集積予定ナリシモノ本物件以外ニ携行セル警備及事務整
理上必要ノ物件消耗品糧食等ノ運搬ヲ先々必要トシ且作業
人員ノ少數ナルト運搬員皆無ニシテ且又連日ノ寒氣ト吹雪ニ阻シ
諸資材ノ運搬作業意ノ如ク進捗セズ爲ニ石炭ヲ新ハ一時北千
島水産株式會社前(通常滿潮時波打際ヨリ約三十米ノ地点)
ニ揚陸集積スルノ止ムナキヲ以テ到着當初ハ所要ニ應ニ運搬使
用シアリナリ

其ノ後築城部出張所ノ引揚ニ際(十一月末)同所人員ノ援助ニ
依リ約二千六百俵ノ石炭ヲ豫定地ニ集積スル事ヲ得爾後天候ノ
許ス限リ毎日起來時及午後將校以下全員ヲ以テ運搬集積ニ現在
ニ至リタルモノニシテ尚現狀ノマ、作業ヲ續行スルニセバ金部ノ運搬
完了ハ概ネ三月下旬ニ及ツモノト豫想シタリ

參

任主

官副	謀參丙	謀參乙	謀參甲	長謀參	長團師
	和		班		

電報翻譯紙

暗・平

暗電報

翻譯者

齋



曹

軍

昭和16年

3月

16日

16時

30分

電信局所受付

番信

六六

三二

昭

和

16

日

午

前

後

16

時

30

分

電

信

局

所

受

付

電

報

班

受

付

電

信

局

所

受

付

電

報

班

受

付

電

信

局

所

受

付

電

報

班

受

付

電

信

局

所

受

付

電

報

班

受

付

電

信

局

所

受

付

電

報

班

受

付

電

信

局

所

受

付

電

報

班

受

付

電

信

局

所

受

付

電

報

班

受

付

電

信

局

所

受

付

電

報

班

受

付

電

信

局

所

受

付

電

報

班

受

付

電

信

局

所

受

付

電

報

班

受

付

電

信

局

所

受

付

電

報

班

受

付

電

信

局

所

受

付

電

報

班

受

付

電

信

局

所

受

付

電

報

班

受

付

電

信

局

所

受

付

電

報

班

受

付

電

信

局

所

受

付

電

報

班

受

付

電

信

局

所

受

付

電

報

班

受

付

電

信

局

所

受

付

電

報

班

受

付

電

信

局

所

受

付

電

報

班

受

付

電

信

局

所

受

付

電

報

班

受

付

電

信

局

所

受

付

電

報

班

受

付

電

信

局

所

受

付

電

報

班

受

付

電

信

局

所

受

付

電

報

班

受

付

電

信

局

所

受

付

電

報

班

受

付

電

信

局

所

受

付

電

報

班

受

付

電

信

局

所

受

付

電

報

班

受

付

電

信

局

所

受

付

電

報

班

受

付

電

信

局

所

受

付

電

報

班

受

付

電

信

局

所

判明セリ

一人員等五区下七官一名病氣ノ爲柏原ニ

(再電中)

收容ルセシメタリ

①再電中

砲台ハ目下再建對策ヲ講ジ便ナル對岸アル

外ニ依ル外ナシ

二暴風被害ハ屋根ノトタンノ飛散セルモノ若

干アルモ應急修理ヲ行ヒ目下支障ナシ

三通信線ハ雪ニ埋没セルモノ切斷セルモノ

全線一旦り通信不能ナリ

四占守島目下積雪ノ爲到ル處通過自由ナル

電報翻譯紙

陸軍

暗・平 電報

翻譯者

昭和 年 月 日 午前 午後

日 午前 午後

時 分

電信局所受付 電報班受付

番 番 番 番

配布先 參・副・兵・經・醫・獸・兵地・職・電

宛 發信者

本文

七占守島幌苳間ノ交通連絡ハカタチ力
ニ一定線一アルヲ利用ノ外其他ハ就航期ヲ

待望セシアリ

右報告ス

通信線ヲ引キタル所 再電中

極秘

發送 番號	師團 警備第三三號	名	件	長	團	師
		軍夫班ニ臨時大 隊備二箇之件同答				
將少附部令司						
長謀參						
長部務主						
部係關						
副官部		參謀部		官副級高		
司令部附		兵器部		任主		
經理部		法務部		任主寫淨		
名出差		北要警備司令官				
參謀長		北要警備司令官				
北要勤第六號ヲ以テ通牒アリタル首 題ノ件軍司令部ニ於テ處置スルニ 付承知相成度同答ス						

發送主任

昭和 16 年 3 月 8 日 調發

極秘

陸軍

師團警備第三三號

軍夫班ニ臨時大隊備ニ關スル件同答
昭和拾六年參月八日 旭川師團參謀長 大本四郎

北要勤第六號ヲ以テ通牒アリタル首題ノ件
軍司令部ニ於テ處置スルニ付承知相成度
同答ス

極秘

發送主任

師團長	司令部附少將
參謀長	參謀長
主務部長	高級副官
主任	主任
淨寫主任	主任
昭和16年5月6日	昭和16年5月6日
發	調

發送番號 師團參警第一四號

宛名 北參謀長

出差名 參謀長

首題ノ件ニ関シ別紙ノ通北千島要塞司令部ヨリ通牒アリタルニ付貴部ニ於テ然ルハク御配慮ヲ煩シ度通牒ス

而追同答ヲ津輕要塞ニ該要塞ノ職員ニ付通知相成度申奉

陸

軍

極秘

陸軍

師團參警第一四號

軍夫並ニ臨時人夫徵傭ニ関スル件

昭和拾六年參月八日

旭川師團參謀長 大本四郎

首題ノ件ニ関シ別紙ノ通北千島要塞司令部ヨリ通牒アリタルニ付貴部ニ於テ然ルハク御配慮ヲ煩シ度通牒ス

而追同答ヲ津輕要塞ニ在ル該要塞ノ職員ニ通知相成度申添

陣中日誌

北千島要塞司令部

軍事極秘

自昭和五、百三〇、
至昭和五、二、三一、

連絡者兼心為、秋次在、如、利明了
 一、二、八、五、五、下、吉、官、一、名、二、病、氣、一、為、
 二、柏、原、小、二、收、容、口、三、七、フ、目、下、下、七、官、一、
 備、一、二、三、一、外、異、狀、無、ク、志、氣、旺、盛、

日誌

日次
十月三十日

水

天候

晴後曇

位置
船内

一、任地出發ニ関スル命令下達ス
北作命第老第

乗船命令

十月三十日七時
於五雄ホリル

一、部隊本早日又時明治丸ニ乗船ニ任地ニ出發セ
ントス

依ツテ又時迄ニ各宿舎ヨリ班長指揮ニ依リ明
治丸岸壁ニ集合スル

二、服装ハ軍装トシ、傭人、服装ハ國防色服脚絆
着用、雅囊又ハ背負袋ニ飯盒ハ辨當入ニ
代用スルコトヲ得

雅囊ハ右肩ヨリ掛ケ締革(締紐)ヲ締ムハヘシ

三、下士官ハ身刃ニ小銃ヲ準備シ置クヘシ

四、船内警急急集合場ハ部隊長室前甲板ス

五、塔載區分ハ土井大尉ヲレテ指示セシム

六、給養ハ現品ヲ船長ニ交付レテ行ハシム

七、個人ノ見送りハ禁ス

八、余ハ又時乘船地ニ至ル

部隊長 小林中佐

命令通報報告事項(官)ニテ下達セシム

二、警務開始ニ關シ報告並ニ通牒ヲ上司並ニ關係各

部隊ニ發送ス、發準備並ニ材料、塔載ヲ実施ス

土井大尉指揮ス

二十四時 全員乗船地ニ集合スヘシ

三十五時 又員塔載樹ノ指揮ニ依リ乗船ヲ完了

ス

四十六時 函館港出帆

五十七時 日直將校船内ニ於ケシ諸注意ヲ達ス

二航海中
二地位
位置

日次
三十一日
木
天候
晴

一、行動

日誌

九時

清松曹長指揮ノモトニ全員甲板ニ於テ体操実施ス

十三時

吉村少佐監督ノモトニ全員甲板ニ於テ教練体操ヲ実施ス

十九時

能戸中尉軍人勅諭各科ヲ実施ス

二、其他

一、人員

移動アリ

將校 七名 准士官下士官 二〇名

傭人 甲五名

二、勤務

日直將校 能戸中尉

日直曹長 久次米伍長

六十八時 能戸中尉救命胴衣着裝法ヲ教育ス

三、其他

一、人員

將校 七名 准士官下士官 二〇名
傭人 四十五名

二、勤務

日直將校 稻積中尉

日直下士官 紺野伍長

船内衛兵

木村政雄 佐藤一良

小木武 古山勝美

渡辺祐吉 齊藤正

日次
十月
三十一日

木

晴
天候

位置
在地向
航海中

一、行動

目

表

九時

清松曹長指揮ノモトニ全員甲板ニ於テ体
操実施ス

十三時

吉村少佐監督ノモトニ全員甲板ニ於
テ教練体操ヲ実施ス

十九時

能戸中尉軍人勅諭科ヲ実施ス
ニ其他

一、人員

移動ナシ

將校 七名 准士官下士官ニ〇名

傭人 五名

二、勤務

日直將校

能戸中尉

日直下士官

久次米伍長

船中衛兵

廣瀬平八 村井清

宮谷又太郎 荒井繁治

長谷久一 梅井菊壽

三、

軽度ノ船酔患者ニ三名生シタリ(傭人)
其ノ他ハ士氣極メテ旺盛ナリ

日次
十一日

金

天候
晴

位置
航海中
任地
向

日誌

一 行動

九時

佐々木曹長指揮ノモトニ全員甲板上ニ於テ体操ヲ実施ス

体操終了后甲板ニ横臥日光浴ヲ実施ス

十四時

清松曹長指揮ノモトニ体操実施ス

十六時

齊藤軍曹指揮ノモトニ軍歌演習ヲ実施ス

二 其他

一 人員

移動ナシ

将校七名 准士官下士官二〇名

傭人四五名

二 勤務

日直将校

稻積中尉

日直下士官

齊藤軍曹

船内衛兵

井上好一

佐東梅三郎

長尾勤

高橋吉三郎

荒井美

泉

清

日次
十一月
二日

土

天候
吹雪

位置
在
地
中
航
海

一、行動
日誌

九時

日直下士官山本伍長指揮ノモトニ全員甲板ニ於テ体操ヲ実施ス

十四時

司令官訓示 全員甲板ニ於テ
高時分司令官訓示 下士官以上高等官食

堂ニ於テ

十七時

日直將校又災予防ニ関スル注意ヲ達ス

二、其他

一、人員

移動ナシ
將校 七名 准士官下士官 二〇名

庸人 四五名

二、勤務

日直將校 能戸中尉

日直下士官 山本伍長

船内衛兵

平塚利平 竹島晋作

林 敬二 工藤光直

小林新三郎 佐々木幸次郎

三、風浪烈シク船酔患者相當數ニ達セリ

四、航海ニ馴レル庸人ヲ選定シ諸雜役ニ服セン

六瀬平八 木村政雄 石藤一良

山本 武

船内掃除、食事運搬、船酔患者ノ救護等能ク精勵ス

十日次
三日

日誌

一、上陸三回スル命令下達ス

北作命第貳番

上陸三回スル命令

十一月三日七時
於明治丸船内

一、部隊分本十一日ヨリ入時任地ニ上陸セントス

二、編成及任務区分左ノ如シ

上陸指揮官 吉村少佐

連 絡 掛 唐津大尉 柏積中尉

卸 下 掛 上井大尉 能戸中尉

運 搬 掛 唐津大尉 下官一人

救 護 班 藤本少尉 下官一人

下官備人 三十分ノ副官区署スヘシ

三、連絡掛ハ連ニ築城部支部ト連絡ニ諸材料

ノ卸下運搬集積ヲ円滑ナラシムヘシ

卸下掛ハ船内及陸上ノ卸下集積並明治丸ト

陸上トノ運搬ニ任スヘシ

卸下終了ニ運搬掛ヲ援助スヘシ

運搬掛ハ築城部支部ト連絡終了後諸材

料ノ運搬ニ任スヘシ

四、卸下順序ハ搭載時ノ及對順序トス又卸

下時ノ服装ハ背囊裝具銃剣ヲ除ク

五、余ハ船内ノ卸下概々其ノ結ニ就キタル後陸

上集積地ニ至ル

林中佐

二、任地到着ニ関スル報告並ニ通牒ヲ各関係部

隊ニ打電ス

三、宿營ニ関スル命令ヲ下達ス

命令

十一月三日

一、部隊ハ當分間現在地ニ在リテ業務ヲ開始セ
ントス依ツテ左ノ通り心得ヘシ

ノ部隊本部 駐 處

二、部隊日直將校及下士官ヲ置ク

三、部隊副官ハ其ノ勤務割ヲ命スヘシ

四、物品糧秣倉庫ニ備人ノ復哨ヲ立哨セシム

五、一般ニ公用ノ外々出ヲ禁ス

六、晝夜間ノ通シ必ク二人以上連行スヘシ

七、單独行動ヲ禁ス

八、日課時限左ノ如シ

九、日朝莫呼 六時 三十分

十、日夕莫呼 十八時 三十分

十一、給養ニ関シ左ノ如ク定ム

十二、久次末伍長ハ傭人ニ名ヲ指揮シ明日夕

食以降ノ下士官以下ノ炊事準備ヲ

爲スヘシ

十三、所要ノ食器及炊事具ハ四十一時倉庫ニ

於テ廣瀬傭人ヨリ交付ス

十四、細部ニ関シテハ左ノ准尉ヨリ指示セシム

十五、依ツテ明日十四時同官ニ連絡スヘシ

四行動

未明部隊ハ任地岨筵島和原灣ニ入港ス

上陸ニ先立テ全員甲板ニ集合明治節ヲ賀

シ送拜式ヲ行フ

七時三十分 司令官訓示

八時 上陸開始

九時

材料ノ卸下作業ヲ実施ス

十五時

石戸主計准尉ヲシテ宿營準備ヲ実施セシム

十六時

寢具ノ分配並ニ燃料運搬ヲ実施ス

五、其他

一、林田伍長以下十名(無線通信班)ヲ指揮

下トス(給與ハ多久部隊トス)

二、人員

將校 七名 准士官下士官 三十二名

兵 八名 傭 人 四十五名

三、勤務

日直將校 柏積中尉

日直下官 谷野伍長

倉庫歩哨 岸田東輔 平嵐正春

四、給與ハ自隊炊事連トシテ至ラス築城部支部

ノ給與ヲ受ケ

五、無線通信班人名

林田春義、野里 繁、小野久吉

安藤寅信、水野河藏、吉田 昇

藤田常雄、滿田勝正、齊藤專一

松谷俊男

編成整備業務分擔表

小林部
昭五.百.二三

考備	長										區分	主任將校	下士官	備															
	部 隊 小 林 中 佐														參謀業務	副官部業務	砲兵部業務	工兵部業務	經理業務					衛生部業務					
	被服	物品	消耗品	糧秣	燃料	酒保品	藤本軍醫	技廣伍長	土谷伍長	三浦軍曹									久次目伍長	山本軍曹	金澤軍曹	副山軍曹	齊藤軍曹		齊藤軍曹	石山伍長	太田兵長	井口技手	濱崎軍曹
石戸主計准尉	唐津大尉	土井大尉	高田伍長	紺野伍長	北澤曹長	佐々木曹長	谷澤曹長	田中定一	渡邊祐吉	木村政雄	廣瀨平八	高田茂	岸田東輔	齊藤正	渡邊捷夫	田口吉次郎	田口吉次郎	田口吉次郎	田口吉次郎	田口吉次郎	田口吉次郎	田口吉次郎	田口吉次郎	田口吉次郎	田口吉次郎	田口吉次郎	田口吉次郎	田口吉次郎	田口吉次郎

一 一般傭人各部に配當セズ
二 日直下士官各部傭人ヲ掌握シ各整備擔任官ノ要求依リ
適宜區署スモノトス

日次
十一月
四日

月

天候

吹雪

温度

最高温度

(十一) 一五

最低温度

(一) 三五

位置

相原

材料

卸業

一行動

自七時
至十五時

搬作業実施

十五時五分將校宿舍前ニ於テ吉村少佐服務

上心得ヲ請注意ヲ達ス

二其他

人員 移動十二

將校七名 准士官三名 兵八名 傭人四名

二勤務

日直將校 能ハ中尉

日直下士官 土谷伍長

倉庫歩哨 高島清作 横山留吉

將校宿舍當番 益谷利助 泉 清

工藤俊美

炊事勤務 田口吉三郎 小林新三郎

佐東梅三郎 山本武

日次	十一月五日	天候	曇	温度	最高温度 (十一度)	最低温度 (一〇三度)	位置	柏原																				
一日課時限並ニ作業実施ニ関スル命令ヲ下達ス	一日課時限ハ通り定ム	起	床	四時三十分	日朝莫呼	四時四十分	朝	食	五時三十分	作業開始	六時三十分	診	断	六時三十分	晝	食	十時三十分	入	浴	十五時三十分	夕	食	十六時	日夕莫呼	十八時三十分	消	燈	十九時三十分

二、明六日ノ作業勤務割左ノ如シ

卸下掛 紺野伍長以下 痛人十名

運搬掛 齊藤軍曹以下 痛人三名

卸下掛ハ能ク中尉ノ指揮ヲ受クヘシ

運搬掛ハ唐津大尉ノ指揮ヲ受クヘシ

残員中勤務ニ支障ナキモノハ志願在尉ノ指示ヲ受クヘシ

二、行動

自十七時ノ材料ノ卸下作業実施(主力)

至十五時

二 糧秣燃料ノ運搬 (一部)

築城部支部ヨリトラック借用

運搬ス

三、其他

一人員 移動ナシ

將校七名 准士官 三十二名 兵八名 傭人五名
二、勤務

日直將校 稻積中尉

日直下士官 高田伍長

倉庫番 三澤利雄 八幡彌三郎

將校宿舎番 益谷利助 泉 清

工藤俊美

次事勤務 田口吉三郎 山本 武

林村政雄 小林新三郎

佐藤梅三郎

日次
辻日

日誌

一、各地区砲台監守者ヲ任命ス
二、各部勤務者ヲ任命ス

命令

陸軍軍曹

福山熊太郎

給三等級

(十月三日附)

陸軍軍曹

全澤弘治

陸軍伍長

三浦生郎

右者第三区砲台監守ヲ命ス

陸軍軍曹

高山熊太郎

陸軍伍長

山本長吉

右者第三区砲台監守ヲ命ス

陸軍伍長

谷野英吉

陸軍伍長

土谷忠雄

右者第四区砲台監守ヲ命ス

陸軍軍曹

齊藤銀六

陸軍伍長

久次米好一

右者第五区砲台監守ヲ命ス

傭人

櫻井菊壽

傭人

宮谷四丑太郎

右者第三区配屬ヲ命ス

傭人

平塚利平

傭人

三澤利雄

傭人

荒谷繁治

右者第三区配屬ヲ命ス

傭人

八幡彌三郎

傭人

藤野文太郎

右者第四区配屬ヲ命ス

庸人 古山勝美
庸人 井上好市

右者第五区配屬ヲ命ス

陸軍軍曹 狹崎徳次郎

庸人 田中定一

庸人 木村政雄

右者高級部員勤務ヲ命ス

陸軍曹長 谷澤一秋

庸人 佐々木良英

庸人 齊藤正

庸人 高橋吉三郎

庸人 山本武

庸人 佐藤梅三郎

庸人 鈴木光信

庸人 工藤光直

庸人 浜谷久一

庸人 橋本政一郎

庸人 村井清

庸人 成田光盛

右者副官部勤務ヲ命ス

陸軍兵技曹長 北澤正辰

陸軍兵技伍長 高田定清

陸軍兵技伍長 紺野七郎

庸人 佐藤一良

庸人 高木栄枝

庸人 大和一正

庸人 堀井義男

右者砲兵部勤務ヲ命ス

右者砲兵部勤務ヲ命ス

備人 宮谷内丑太郎

備人 三澤利雄

備人 藤野文太郎

備人 井上好一

陸軍曹長 青松惣次

陸軍兵技伍長 石山長四郎

陸軍伍長 太田常雄

陸軍技手 井口基資

備人 林敬二

備人 渡邊祐吉

備人 長尾勤

備人 横山留吉

備人 岸田東輔

備人 佐々木幸次郎

備人 渡邊捷夫

備人 五十嵐正春

備人 高島清作

備人 荒井実

備人 小林新三郎

備人 吉山勝美

備人 平塚利平

備人 八幡彌三郎

備人 櫻井菊壽

右者工兵部勤務ヲ命ス

備人 廣瀬平八

備人 高田茂

備人 田口吉三郎

右者經理部勤務ヲ命ス

陸軍衛生主任長枝廣一

庸人 伊藤誠

庸人 荒谷繁治

右者衛生部勤務ヲ命ス

二、行動

自六時三十分至十五時五分 材料卸下作業

三、其他

人員 移動ナシ

將校 七名 准士官 二十二名 兵八名
庸人 四十五名

2. 勤務

日直將校 能戸中尉

日直下士官 石山伍長

倉庫歩哨 橋本政一、村井清

將校宿舎警備 澁谷利助、泉清

炊事勤務 田口吉三郎、山本武

通信所勤務 林敬二、佐々木幸次郎

高島清作

考備	部 隊 小 林 中 佐											長	編 成 表	小 林 部 隊										
	人員	砲台監守 第三區	砲台監守 第四區	砲台監守 第五區	衛生部	經理部	工 兵 部			砲兵部	副官部				企画部	區分								
							一號無 線電信所	二號無 線電信所	三號無 線電信所								主任將校	下士官	雇 備 人					
				稻積中尉	藤本軍醫	石戸准尉	土井大尉			唐津大尉	柏積中尉	能戶中尉 吉村佐												
	久次米伍長	齊藤軍曹	土谷伍長	谷野伍長	山本軍曹	福山軍曹	三浦伍長	金澤軍曹	枝廣伍長	林田伍長	野里伍長	井口技手	太田伍長	石山伍長	清松曹長	紺野伍長	北澤曹長	高田伍長	佐々木曹長	谷澤曹長	淡崎軍曹			
總人員八拾貳名	吉山勝美	井上好市	八幡彌三郎、藤野文方郎		平塚利平、三澤利雄、荒谷繁治、	櫻井菊壽、宮谷四太郎	伊藤誠、荒井繁治	廣瀬平八、高田茂、田口吉次郎、海谷利助、泉清、五十嵐平八郎、工藤俊美、竹島留作	小野久吉、吉田昇、藤田常雄、滿田勝正	永野四藏、齊藤專一、守藤寅信、松谷俊男	岸田東輔、佐木章次郎、渡辺捷夫、五十嵐正春、高島清作、荒井實、小林新三郎、櫻井菊壽、平塚利平、吉山勝美、八幡彌三郎			林敬二、渡辺祐吉、長尾勤、横山晋吉	佐藤一良、高木栄枝、大和一正、井上好市、坂江義男、宮谷四太郎、三澤利雄、藤野文太郎	高橋莫郎、齊藤正、山本武、佐東梅三郎、鈴木光信、工藤光直、淡谷久一、村井清、橋本政郎、成田光盛	田中定一、水村政雄							

日次
十一月
七日

天候
木

雨後晴

湿度

最高湿度
(48.5%)

最低湿度
(14.5%)

(一) 四名

位置
相原

特記事項
卸下
作業

日誌

一 作業終了の指示ヲナス

二 行動

三 其要領ヲ継テ實施ス(砲工兵部員)

一 明治丸相原ヲ出帆ス

二 人員 移動ナシ

將校七名 准士官三名 兵八名 傭人五名

勤務

日直將校 稻積中尉

日直下士官 紺野伍長

倉庫歩哨 高橋吉三郎 竹島晋作

將校宿舎當番 益谷利助 泉 清

工藤俊美

炊事勤務 田口吉三郎 山本 武

小林新三郎 中嶋天郎

通信所勤務 林 敬二 高島清作

佐々木幸次郎

日次
十一月
八日
金

天候
雨後晴

最高温度
(山)九度
最低温度
(一)四度

位置
相原
特記事項
卸下材料
整備

日誌

一 砲台監守教育並作業ニ關スル指示ヲナス
砲台監守教育ニ關スル命令
一 砲台勤務要員ニ對シテ記計畫ニ基キ教育ヲ
實施ス

日次	時間	課目	教官
九日	自 八時三十分 至 十時三十分	砲兵業務	砲兵部員
	自 十一時 至 十二時	衛生法救急法	軍 医
	自 十二時 至 十三時	工兵業務	工兵部員
十日	自 八時三十分 至 十時三十分	地帯業務	副 官

場所、傭人宿舎トス
砲台勤務要員以外、モハ、勤務ヲ支障ナキ限リ
出場スベシ

二 行動

相原地区(第一区)要塞兵器彈藥器材ノ受
領ヲ継テ實施ス(砲工換部員)

三 其他

人員 移動ナシ
將校七名 准士官三名 兵八名 傭人甲名
二 勤務
日直將校 能戸中尉
日直下士官 濱崎軍曹
倉庫歩哨 浜谷久一 成田光益
將校宿舎當番 益谷利助 泉 清
工藤俊美

日次

日誌

十一月九日

土

天候

雪

最高温度

(+) 二五

最低温度

(-) 二五

位置

柏原

持記事務

砲台指導

教育

一、柏原附近地質ノ性質ニ鑑ミ規定外被服トシ
テゴム長靴支給ヲ師團ニ要求ス

二、行事

八、自八時
至十時 卸下材料ノ整備運搬ヲ実施ス

二、自八時
至十時 予定ニ其キ各部官ヲシテ砲台防守教

育ヲ實施ス

砲台地区(第一区)ノ要塞兵器彈藥器材

三、其他

人員移動ナシ

將校七名 砲台官 三名 兵八名 傭人四五名

二、勤務

日直將校 唐津大尉

日直下士官 三浦伍長

倉庫兵 高木栄枝 大和一正

日次

日誌

十一月十日

一片岡出張ニ關スル命令ヲ下達ス

日

命令

天候

一明 十日日本職片岡ニ出張ス

雨

陸軍少佐

吉村正作

最高温度

陸軍中尉

能戸英三

(十一夜)

陸軍軍曹

濱崎徳次郎

最低温度

陸軍少校

紺野七初

(一四夜)

庸人

岸田東輔

位置

右本職ニ隨行ヲ命ス

柏原

二行動

干前却下材料 刺正理 分配運搬ヲ實施ス

自九時 至十一時 稍積中尉地帯業務ニ關スル教育ヲ

實施ス(各砲台並守者)

自十三時 至十五時

能之中尉情報勤務ニ關スル學科ヲ

實施ス

三其 他

人員 移動ナシ

將校七名 准士官 下士官 兵八名 庸人 四十五名

又勤務

日直將校 藤本少尉

日直下士官 北澤曹長

倉庫歩哨 平塚利平 井上好市

日次
十一月
十一日

日誌
一皇紀二千六百年奉祝會ニ當リ送拜式ニ臨スル命
令ヲ下達ス

二行動

司自八辨各地砲台監守ニ必要ナル糧秣材料
集下五名片因無上陸附近地糧秣査並情報蒐

地砲台監守者

最高温度
最低温度
一四五

二其他者ヲシテ糧秣並燃料運搬實施ス
六十四時三六百年祝賀會ニ當リ全員宮城送拜ヲ
行フ

位置
和原

場所 將校宿舎前トス

三其他

人員 移動ナシ

將校七名 准士官三名 兵八名 傭人四名

二勤務

日直將校 土井大尉

日直下士官 清松曹長

倉庫歩哨 横山留吉 長尾 勤

日次
十一月
十二日

火

天候

晴後雪

最高温度

最低温度

位置

相原

日誌

一各地砲台出發二爾ル命令下達ス

命令

一本職左記通り出張ス

十三日 第四区

十四日 第五区

十五日 第三区

十六日 第二区

出發ハ各月共五時五分往復共琵琶

丸トス

二 吉林少佐 唐津大尉 土井大尉

能戸中尉 稻積中尉 藤本少尉

石戸准尉 井口技手 清松曹長

北澤曹長

本職ニ隨行ヲ命ス

三各地砲台監守及配屬傭人ハ左記通り

任地ニ出發スヘシ

十三日 第四区

十四日 第五区

十五日 第三区

十六日 第二区

出發時刻ハ各日共塔載完了後トス

四各地砲台荷物塔載ニ爾ル心通心得ヲヘシ

一勤勞者以外下士官傭人全員

二塔載開始時刻五時

五荷物卸下ハ左記通り出張スヘシ

十三日 第四区 佐々木曹長以下十一名

十四日 第五区 浜崎軍曹以下十六名

十五日 第三区 高田伍長以下十五名
十六日 第三区 谷澤曹長以下十五名

服装八所寒被服着用各班小銃三實包
六。發食糧ニ食介援行トス
其他細部ニ關シテハ別ニ指示ス

二、行動

一、石戸准尉ヲシテ各地砲台ノ糧秣其他諸材
料ノ輸送準備ヲナシム

三、人員移動ナシ

將校七准下官 兵八名 傭人四十五名
勤勞

日直將校 石戸准尉

日直下士官 高田伍長

倉庫歩哨 五十嵐正春 荒井實

日次

十一月十三日

水

天候

曇後雪

最高温度

(+) 四度

最低温度

(+) 一度

位置

柏原

特記事項

各地砲台

兵器防集

營運物申

受用始末

日誌

一、行動

八、第四区砲台監守任地ニ出發ス

各地砲台ニ屬スル要緊兵器防集營運物申

受用始末(司令官各部員)

火法ニ未嘗長以下十一名第四区砲台監守荷物輸

送ニ從事ス

又能戸中尉第四区附近ニ情報蒐集ニ努ム

六、卸下材料、整正備並ニ運搬ニ實施ス

二、其他

勤務

日直將校 能戸中尉

日直下士官 谷澤曹長

倉庫兵哨 高島清作 岸田東輔

人員轉出

轉出第四区勤務 下士官ニ名 傭人ニ名

現員將校七名 下士官ニ名 兵八名 傭人四三名

日次
十一月
十四日

木

天候
雨

最高温度

(四)八五

最低温度

(四)三五

位置

和原

一行動

日

誌

1. 第五区砲台監守任地ニ出發

2. 第五区砲台ニ屬スル兵器器材防禦營造物
ヲ受領ス(司令官 各部員)

3. 濱崎軍曹以下十六名砲台監守荷物輸送ニ
任ス

4. 能戶中尉第五区附近ノ情報ヲ蒐集ス

5. 卸下材料運搬並ニ整理ヲ實施ス

二其他

1. 轉出 第五区砲台勤務下士官三名傭人三名

現員將校七名 准士官一八名 兵八名 傭人四一名

2. 勤務

日直將校

唐津大尉

日直下士官

佐々木曹長

倉庫歩哨

濱谷久一

橋本政一郎

日次
十一月十五日

入金

天候

雨後雪

最高温度

(十五度)

最低温度

(十一度)

位置

相原

一、行動

1. 卸下材料、整理運搬ヲ實施ス

2. 第三區砲台監守任地ニ出發ス

3. 第三區砲台ニ屬スル兵器器具材料ヲ御示

營造物ヲ受領ス (司令官各部員)

4. 高田伍長以下十六年砲台監守荷物、輸送

ニ任ス

5. 能戸中尉第三區附近、情報ヲ蒐集ス

二、其他

現員將校七名 准士官 一六名 兵八名 傭人三八名

入、轉出

第三區砲台勤務 下士官 三名 傭人 三名

又、勤務

日直將校 藤本少尉

日直下士官 石山伍長

倉庫歩哨 村井 青 高橋吉太郎

日次

十一月

十六日

土

天候

晴後曇

最高温度

(十六度)

最低温度

(十一度)

位置

柏原

日誌

一、行動

1. 卸下材料、整理運搬ヲ實施ス

2. 第二区砲台監守任地ニ出發ス

3. 第三区砲台ニ屬スル兵器器材防禦營造物

ヲ受領ス (司令官 各部隊)

4. 谷澤曹長以下十六名砲台監守荷物、輸送

ニ任ス

5. 能戸中尉第三区附近、情報ヲ蒐集ス

二、其他

1. 人員 將校七名 准士官一四名 兵八名 傭人三名

2. 勤務

日直將校

土井大尉

日直下士官

紺野伍長

倉庫兵

竹島晋作 成田光盛

日誌

日次
十一月
十七日

一 行動

1. 新廳舎移轉準備、實施

2. 糧秣物品燃料、運搬實施

二 其他

現員將校七名 准士官一四名 兵八兵 傭人三十六名

一 勤務

日直將校 石戸准尉

日直下士官 浜崎軍曹

倉庫兼哨 高木栄枝 大和正

位置
柏原

最高温度
最低温度
晴後雨

日次

十月十八日

月

天候

霽雪後晴

最高温度

(H) 三

最低温度

(L) 二

位置

柏原

日誌

一、行動

1. 新廳舎移轉準備の實施ス

2. 糧秣燃料物品運搬ヲナス

二、其他

1. 人員

將校七名 准士官一四名 兵八名 傭人三六名

2. 勤務

日直將校 能戸中尉

日直下士官 枝廣伍長

歩 哨 横山留吉 平嵐正春

日次
十一月
十九日

火

天候

曇

最高温度

(+) 四度

最低温度

(-) 二度

位置

相原

日誌

一新應舎移轉ニ關スル命令ヲ下達ス

命令

一 明平日左記通り下士官及傭人ハ新應舎ニ移轉ス
スレシ

八 六時ヨリ移轉ヲ開始シ十時三十分迄ニ私物炊事

具衛生材料運搬

二 十一時三十分ヨリ燃料及糧秣運搬

三 晝食携行トス

注意

一 新舊両兵舎ニ關スル火災予防ヲ嚴ニスルニ

二 官物私物共紛失遺漏ナキニト特ニ兵器及

彈藥ニ注意ス

二 行動

一 新應舎移轉準備ヲ實施ス

二 糧秣燃料物品ノ運搬

三 其他

一 人員

將校七名 准士官四名 兵八名 傭人三十六名

二 勤務

日直將校 唐津大尉

日直下士官 太田伍長

歩哨 長尾 勤 荒井 清

日次

十一月二十日

水

天候

曇後雪

最高温度

(十一) 五度

最低温度

(一) 三度

位置

相原

特記事項
要緊兵器
林防架
造物受領
完了

一 行動

1. 新廳舎移轉ヲ実施ス

2. 醫務室下士官宿舎傭人宿舎炊事場、
要緊備付兵器架設所架設造物受領完了之ヲ

3. 司報貴舎久三營設備不備ヲ補修ス

二 其他

1. 人員

將校七名 准士官 四名 兵八名 傭人三六名

2. 勤務

日直將校 藤本少尉

日直下士官 北澤曹長

歩 哨 木村政雄 堀江義雄

日誌